

◆年表 日本女子大学の100年◆

日本女子大学

2001

◆年表 日本女子大学の100年◆

日本女子大学
2001

百年史年表の発刊に寄せて

1901年に目白の地に誕生した日本女子大学は、今年創設百年の節目を迎えるにあたり、多くの記念行事と記念出版物の刊行を企てた。『年表』もその一つである。こうした企ては、十年ごとの節目節目に、少なからぬ蓄積があり、そこに最近の十年を加えればよいようであるが、実はそうではない。歴史は刻々とその意味をあらたにして、ことがらの読み直しを迫るからである。今回も、年表の編集にあたって、創設以来のさまざまな出来事に対する、そうした読み直しの行なわれたのは無論のことである。

それにしても、近代国家誕生間もない明治から、第二次大戦を挟んでのこの一世紀は、我が国にとって大変動の世紀であった。国の存亡を問う危殆に瀕し、奇跡的といわれる復興を遂げ、国際社会での評価が乱高下する厳しい試練のなかで、いまようやく健全な市民感覚が育ちつつあるかに見える。そうした歴史のなかで、最も大きな変貌を遂げたのが、女性の地位である。しかしこのことへの予感、二十世紀の初頭、すでにいち早く指摘されていたのであった。その開花を促すために生まれた女子高等教育機関の一つとして、本学の果たしてきた役割は、いまあらためて云うまでもないであろう。年表の意義はむしろ、その予感を受け継ぎ、苦しみの時代時代をくぐり抜けて育ててきた、先達の智慧や工夫を辿ることにある。いたづらに驕らず、この大きな遺産を次代に伝えていく力を、私どもは日々養わねばならない。この冊子は、そうした営みの大きな助けになるであろう。

2001年10月

日本女子大学学長
後藤祥子

目 次

百年史年表の発刊に寄せて	iii
凡例	vii
学園創立前	
(1858・安政5年～1901・明治34年)	1
日本女子大学校	
(1901・明治34年～1948・昭和23年)	9
日本女子大学〈新制〉	
(1948・昭和23年～2001・平成13年4月)	45
典拠一覧	100

凡 例

I 構成について

本年表は、1858年～2001年4月まで、すなわち、日本女子大学の創立者、成瀬仁蔵の生誕から、1901年創立された日本女子大学の100年間を、年表で表したものである。構成は、学園成立前史・専門学校時代・大学時代の三区分をとり、内容は前史事項と学園事項および参考事項からなる。各々の事項は以下のようにして選択した。

学園事項（前史事項も同じ）

1. 日本女子大学の学園史『日本女子大学校四拾年史』（1942年）、及び『日本女子大学学園史二』（1968年）の巻末に付された年表を中心に編集した、『年表 日本女子大学の90年』（1991年）を基礎とした。三区分を通じて教学関係事項に重点をおいた。
2. 今回、上記の年表については、改めて検討し、修正・増補を加えた。
3. 上記の年表以降の部分は、今回新たに、学校法人の発行する「学事報告」より事項を選択した。

参考事項

1. 日本及び外国の社会の動きより主要事項を選択し、さらに、本年表に係わる女性・教育（特に女子教育）事項を重視して取り上げることとした。
2. 女子専門学校の設立は1945年8月までに限り記載した。男子系の専門学校及び大学は、必要と思われるもののみ取り上げた。
3. 事項選択に当たって、主として、『近代日本総合年表』（岩波書店）、『戦後史大事典』（三省堂）、『近代日本婦人問題年表』（『日本婦人問題資料集成 第10巻』ドメス出版）、『日本教育史年表』（三省堂）などを参考にした。
4. 最近の動向については、各年度の「婦人白書」（ほるぷ出版）、「教育データランド」（時事通信社）及び各新聞社の「年鑑」などを参照した。

II 記述について

学園事項（前史事項も同じ）

1. 典拠は、事項末尾に（ ）の数字で示した。数字は巻末の「典拠一覧」によって、更に詳しくその典拠を知ることが出来る。事項の内容のみならず、広く関連の資料も掲載した。典拠の掲載順は、巻末の典拠一覧の順である。

典拠は原則として、刊行物によったが、若干事項により原資料、あるいは日本女子大学成瀬記念館所蔵の文書、更には聞き取りによった。それらは、一括して(33)の番号とし、詳細は明記していない。なお、原資料が刊行物である場合に限り、(34)とした。

例) 12.22 帰国の途につく。(3-159)(4-552)

巻末の典拠一覧で3は「成瀬先生伝」、159は頁を示す。また、4は「日本女子大学校四拾年史」、552は頁を示す

例) 4.1 計算研究所設立。(15-42-1/43-1,110)

15は「学事報告」、42-1は42年度の1頁を43-1、110は43年度の1頁と110頁を示す。「学事報告」の頁表記は、原物の通りとした。

なお、典拠番号11の「家庭週報」・⑪「桜楓新報」・18「学園ニュース」は、号数のみを表示し、頁は記載していない。

2. 年代、月日の表示は西暦を用いた。1872年以前の事項に関しては、陰暦の年月を用いた。月日の不明なものは○を付し、その年の最後に配列した。しかし、およそ月の判明している事項はその月に配列した。

月は確かであるが、日付の不明な事項については、学園の重要事項は月の最初に配列した。「新年度より開始された」内容を含む事項は4月1日の日付を採用した。また、刊行物（新聞を除く）の発行は、月末にまとめた。

3. 記号「」は単行書をあらわす。

「」は逐次刊行物、あるいは呼称されている事項をあらわす。

○で、月日が不明な場合と、その年代全般に係わる事項を示した。

()は典拠を示す。(1を参照)

4. 数字は算用数字を用いた。

参考事項

1. 参考事項には月のみ示してある。

月の表示は、1872年の太陽暦採用以前の事項に関しても、太陽暦を用いた。基本的に月日の順に配列してある。

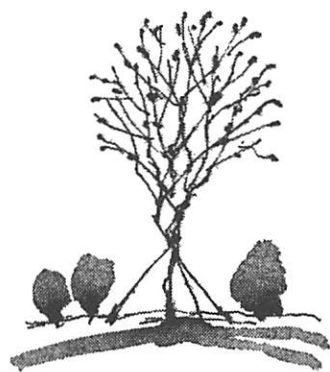
2. 学校名については、現在の校名がわかりにくいものに限る（後の○○大学）とした。

3. 記号「」は逐次刊行物、あるいは呼称されている事項を示す。

○はその年代に係わる事項を示す。

4. 数字は算用数字を用いた。

学園創立前(1858～1901)



年	月日	学 園 前 史 事 項	参 考 事 項
1858 (安政5)	6. 23	本学創立者成瀬仁蔵，周防国吉敷村（現在・山口県山口市吉敷）の長州藩士の家に生まれる。父 小右衛門，母 歌子。(3-1) (4-2)	7. 日米修好通商条約調印。 10. 安政の大獄始まる。
1863 (文久3)	○	この頃，吉敷の郷校憲章館に入学。(3-26) (22-6)	
1864 (元治元)			9. 4国連合艦隊下関砲撃。
1865 (慶応元)	11. 7	母 歌子没。(3-19)(4-5)	
1868 (明治元)			1. 王政復古の大号令。 10. 明治と改元。
1871 (明治4)			8. 廃藩置県。 12. 津田梅ら5名の少女米国留学。
1872 (明治5)			9. 学制頒布。
1873 (明治6)			2. キリスト教解禁。 7. 地租改正条例布告。
1874 (明治7)	12. 17	父 小右衛門没。(3-14, 32) ○ この年から翌年4月まで山口県小郡の医師福田徳治方で調剤手となり物理学を学ぶ。 (3-29)(4-6, 10)	1. 民選議院設立建白書を提出。 3. 東京に女子師範学校（初の女教師養成機関）設立。
1875 (明治8)	5.	山口県教員養成所に第2期生として入学。	11. 同志社英学校（後の同志

年	月日	学 園 前 史 事 項	参 考 事 項
		(3-32)(4-7, 10)	社大学) 設立。 ○ 「明六雑誌」 婦人問題論争。
1876 (明治9)	6. 6	教員養成所卒業。9日から同県室津小学校訓導。(3-33)(4-7, 10)(33)	
1877 (明治10)	1. 10	二島小学校訓導(3月まで)。(33) 夏, 沢山保羅により, キリスト教に触れ, 郷里を出で神戸の佐畑信之宅に寄寓, その後大阪に行きキリスト教の伝道師となることを決意する。(3-35~37, 39)(4-9~11)	2. 西南戦争起こる。 4. 東京大学設立。
	11. 3	浪花公会で沢山保羅より洗礼を受ける。(3-42)(4-11)(25-1)	
1878 (明治11)	1. 7	梅花女学校開校, 同校教師となる。(3-53, 54)(23-3, 51, 53)	
1879 (明治12)	1. 26	服部マスエと結婚(1900年9月死去)。(3-68)(31-1-55)	9. 教育令制定(男女別学規定)。
1881 (明治14)	12. 24	成瀬仁蔵著『婦女子の職務』(販売・大阪丸善支店他)出版。(3-62)(34)	10. 明治14年の政変。
1882 (明治15)	8. 26	梅花女学校を辞任し, 伝道に専心する。(3-66)(4-12)(23-60)	7. 東京女子師範学校附属高等女学校設置。 10. 東京専門学校(後の早稲田大学)設立。
1883 (明治16)	1. 12	大和郡山の伝道所へ赴任。(25-5)(31-1-	

年	月日	学 園 前 史 事 項	参 考 事 項
1884 (明治17)	78)	<p>1. 2 新島 襄らにより按手礼を受ける。郡山教会の初代牧師に就任。(3-69)(4-12)(25-6)(31-1-88, 135)(33)*</p> <p>○ この年、同志社にて麻生正蔵に会う。(30-161)</p>	<p>9. 加波山事件起こる。</p> <p>10. 秩父事件起こる。</p>
1885 (明治18)			<p>7. 「女学雑誌」創刊。</p> <p>9. 明治女学校設立。</p>
1886 (明治19)	7. 6	<p>沢山保羅らの説得により新潟へ転任のため、郡山教会牧師を辞任(沢山保羅、翌年3月死去)。(3-83, 85)(31-1-129)(31-2-40)</p> <p>7. 新潟へ赴任。(3-83)(4-12)(24-23)(31-1-129)(31-2-40, 41)</p> <p>10. 2 新潟第一基督教会初代牧師に就任。(24-23)</p>	<p>3. 帝国大学令公布。</p> <p>4. 小学校令・中学校令・師範学校令公布。</p> <p>12. 東京基督教婦人矯風会結成。</p>
1887 (明治20)	5. 21	<p>新潟女学校を開校、校長となる。(1-3)(3-89)(26-26~28, 49, 50, 70)</p> <p>10. 15 北越学館開校、設立に参加。(3-92)(24-23)(26-118, 145)(32-79)</p>	<p>7. 『婦女鑑』刊行。</p> <p>9. 大日本婦人衛生会結成。</p>
1888 (明治21)	2. 1	<p>牧師を辞任し、校長に専念。(24-23)(26-51, 70)</p>	
1889 (明治22)	4.	<p>麻生(当時白木姓)正蔵、北越学館に教師として就任。(26-129, 318)</p>	<p>2. 大日本帝国憲法発布。</p> <p>5. 民法典論争起こる。</p>

年	月日	学 園 前 史 事 項	参 考 事 項
1890 (明治23)	10. 23	アメリカ留学を志し、新潟女学校校長を辞任。(26-36~37, 70)	3. 女子高等師範学校(後のお茶の水女子大学)設立。
	11. 10	新潟を離れる。(3-107, 108)(26-70)	7. 集会および政社法公布(女子の政治活動禁止)。
	12. 16	渡米。(3-108)(4-14)	10. 教育に関する勅語発布。 11. 帝国議會開会。
1891 (明治24)	1. 11	ボストン近郊、ノース・アンドーバーのH. H.レヴィット宅に着く。アンドーバー神学校に入学、社会学の教授W. J.タッカーの知遇を受ける。(3-110, 114, 115)(4-13, 14)	8. 「女鑑」創刊。 12. 高等女学校を尋常中学校の一種と規定。
	4. 13	ウェルズリー女子大学(1875年開校)の招待により、同校内に1週間滞在。(27)	
1892 (明治25)	6.	アンドーバー神学校を去り、9月クラーク大学に入学、教育学部研究科に籍をおき、女子教育を専攻する。(3-129, 131) ○ この年より、翌年にかけてスミス女子大学(1875年開校)、マウント・ホリヨーク女子大学(1837年開校)、ヴァッサー女子大学(1861年開校)、プリンモア女子大学(1885年開校)をはじめ米国各地の学校、社会事業諸施設を参観する。(3-132, 133)	
1893 (明治26)	9.	Jinzo Naruse <i>A Modern Paul in Japan</i> (Congregational Sunday-School and Publishing Society) 出版。(3-124~126)(34)	4. 日本基督教婦人矯風会結成。 7. 女子就学促進の訓令(この年、初等教育就学率男

年	月日	学 園 前 史 事 項	参 考 事 項
1894 (明治27)	12. 22	帰国の途につく。(3-159)(4-552)	子71.6%, 女子37.8%)。
	3.	梅花女学校校長となる。(1-5)(3-161)(4-19, 20)(23-6, 97)	6. 高等学校令(男子)公布。
	4.	大阪府知事内海忠勝を訪問, 女子大学設立について相談する。(33)	8. 日清戦争始まる。
	5.	伊藤博文を訪問, 大阪に女子大学を設置する企図について賛同を得る。(4-26)	10. 女子高等師範学校規程制定。
	5.	文部大臣西園寺公望を訪問。(4-32) ○ この年, 梅花女学校校則を改正し, 教育改革を試みる。(23-98)	
1895 (明治28)		○ この夏, 麻生正蔵の執筆協力を得, 教育構想を『女子教育』にまとめる。(3-163)(4-21)	1. 高等女学校規程制定。
			4. 下関講和条約調印。 4. 三国干涉。 5. 大日本教育会, 高等女学校教育を内助養成と決議。
1896 (明治29)	2. 21	成瀬仁蔵著『女子教育』(青木嵩山堂)出版。(1-5)(3-163~167)(4-21)(34)	
	7.	梅花女学校校長を辞任。(1-5)(3-180)(4-35, 36)(20-7, 99)	
		○ 資金30万円の募金を予定し大阪における女子大学設立計画を発表。内海忠勝, 土倉庄三郎, 広岡浅子らの賛助を得, 東京においては伊藤博文, 西園寺公望, 大隈重信, 渋沢栄一, 森村市左衛門, 板垣退助らに援助を乞う。年末に設立趣意書発表。(1-6)(3-173~178, 181)(4-29~35)	

年	月日	学 園 前 史 事 項	参 考 事 項
1897 (明治30)	3. 13	「女子教育振起策」と題して帝国教育会にて演説。(4-45, 46)	12. 師範学校・小学校に男女別学に関して訓令。 ○ この頃より、経済不況。各地に米騒動、労働争議急激に増加。
	3. 24	東京星ヶ岡茶寮において第1回発起人会開催。(1-9)(3-186)(4-47)	
	3. 25	帝国ホテルに貴衆両院議員を招待、第1回創立披露会を開催。(1-9)(3-186)(4-47~49)	
	5.	上旬、第1回創立委員会を大隈重信外務大臣官邸にて開催。創立委員長、大隈重信となる。(1-9)(3-194)(4-50)	
	5. 26	大阪中ノ島ホテルで第2回発起人会、第2回創立披露会を開催。(1-9)(3-195)(4-50, 51)	
	10. 3	神戸にて女子教育演説大会開催。成瀬仁蔵、中川小十郎、嘉納治五郎、伊沢修二、女子大学設立の意義について演説。(1-9)(3-196, 197)(4-51)	
		○ この年、大阪城南の清水谷に校地5,000坪を購入。(4-59)(33)	
1898 (明治31)	5.	大阪および東京に創立事務所を開設(創立事務幹事長・中川小十郎、同幹事・麻生正蔵)。(4-57)	6. 民法親族編および相続編公布。 11. 帝国婦人協会結成。
		○ この年、経済不況により設立運動一時停滞する。(4-52, 53)	
1899 (明治32)	5. 10	創立委員、各自の出資額を決め、それを以って募金運動の基礎確立を計ることを決定。(4-57, 58)	2. 実業学校令公布。 2. 高等女学校令公布。良妻賢母主義教育広まる。 3. 義和団蜂起。
		○ この年、女子大学設立地大阪について、再	

年	月日	学 園 前 史 事 項	参 考 事 項
1900 (明治33)	<p>検討はじまる。(4-60)</p> <p>5. 大阪の創立委員会で女子大学建設地を東京に決定。大阪方面の寄付約5万円に達する。(1-12)(3-199, 200)(4-65)</p> <p>6. 14 東京にて創立委員会開催。三井家から東京目白台に女子大学敷地として、5,520坪の寄付を受ける。女子大学設立費不足分を發起人にて負担し、1901年4月に開校することを決定。建築委員、教務委員、校舎建築監督などを決定。(1-13)(3-201)(4-66, 67, 82, 86)</p> <p>9. 校舎の建築進行。(4-67) 家政学部・国文学部・英文学部(3年制)、および附属高等女学校(5年制)生徒約500名の募集を発表。(4-67)</p> <p>11. 岩崎弥之助外29名の名で日本女子大学校設置認可願を東京府知事に提出。12月24日認可。(1-20)(4-72)(33)</p>	<p>8. 私立学校令公布。</p> <p>8. 宗教と教育を分離する訓令。</p> <p>3. 治安警察法公布。女子の政治結社加入、政談集会参加などを禁止。</p> <p>5. 福島四郎、「婦女新聞」創刊。</p> <p>6. 北清事変起こる。</p> <p>7. 津田梅、女子英学塾(後の津田塾大学)を設立。</p> <p>12. 吉岡弥生、東京女医学校を設立。</p> <p>○ この年より翌年にかけて経済不況。</p>	
1901 (明治34)	<p>1. 校長を成瀬仁蔵、設立者総代を大隈重信とする申請を認可される。(4-72)(33)</p> <p>4. 8 第1回入学試験実施。同日、無試験入学許可者中、入寮希望者の入寮開始。高等女学校生徒も大学部寮舎に入寮。(4-73, 345)(10-1-161)</p>	<p>2. 愛国婦人会結成。</p> <p>4. 女子美術学校設立。</p>	

日本女子大学校(1901~1948)

日本女子大学校



年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1901 (明治34)	4. 20	日本女子大学校開校式。第1回入学許可生徒510名(家政学部84, 国文学部91, 英文学部10, 英語予科37, 高等女学校全学年288), 校舎2棟, 寮舎3棟, 教師館2棟ほか。(1-20~22)(3-202)(4-74, 75, 82, 83)(10-1-161, 162)	12. 日本赤十字社条例公布。 ○ 全国の高等女学校総数70(内私立は8校)。
	9. 25	皇后より金2,000円下賜。(1-28)(3-221)(4-84)(10-1-163)	
	10. 22	第1回運動会を飛鳥山渋沢栄一別邸庭園にて開催。(4-87)(10-1-167)	
1902 (明治35)	4. 20	第1回創立記念式および高等女学校第1回卒業式挙行(卒業生82名, 大多数は大学部へ進学)。(4-85)(10-1-164, 165)	1. 日英同盟協約調印。 ○ 新聞紙上で女学生批判盛ん。
	4.	大学部校舎1棟増築。(4-86)(10-1-163)	
	9.	樺山資紀の厚意により, 同邸内に寮舎2棟建築。華山寮と名づける。(4-86, 429)(10-1-163)	
	10. 18	第2回運動会を本校校庭にて開催。参観者1,200余名。(4-87)(10-1-167~169)	
	12. 17	森村豊明会の厚意により本校隣地を借用, 寮舎1棟増築, 開寮式をおこなう。豊明寮と名づける。(4-86, 429, 444)(10-1-163)	
1903 (明治36)	4. 20	第2回創立記念日に植樹, 木植えの歌をうたう。(4-90~92)(10-1-166, 167)	2. 小杉天外, 『魔風恋風』刊行。 3. 高等女学校教授要目を制定。 3. 専門学校令公布。 ○ 女子雇用増加。
	4. 20	各寮の命名式を行う。(4-438)	
	4. 20	卒業後の活動を期し桜楓会発会。(1-32, 33)(4-89, 90, 463, 464)(10-3-152)	
	4.	樺山愛輔所有の地所2,000坪を購入。大学	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1904 (明治37)	部校舎1棟および体操場増設。(4-86) (10-1-163)	
	7. 10 「学報」創刊(1904年12月第4号で終刊)。 (4-90)(34)	
	7. 13 夏期修養寮として夏季寮を組織する(以後、 毎年開催)。(4-103, 417)(10-2-207)(10- 4-161)	
	10. 24 第3回運動会を本校校庭にて開催。参観者 5,000余名。(4-87)(10-2-181~202, 210, 211)	
	2. 26 私立日本女子大学校, 専門学校令により認 可。3月1日から本校規則を専門学校令に 準拠。(4-553)(10-3-160)(33)	2. 日露戦争始まる。 3. 女子英学塾, 青山女学院 英文専門科, 専門学校令 により認可。
	3. 2 桜楓会, 「女子大学週報」(謄写版刷) 発 刊。(4-467)(10-3-159)(34)	4. 小学校国定教科書採用。
	4. 9 大学部第1回卒業式挙行。卒業生121名。 (4-104)(10-3-161~167)	○ 自然主義文学隆盛に向か う。
	4. 10 桜楓会第1回総会。桜楓会実業部開設。 (4-463, 466~468)(10-3-156~158)	
	4. 29 学監麻生正蔵, 欧米女子教育視察に出発。 (4-105)(10-3-169)	
	6. 10 本校生徒, 日露戦争に際し包帯制作に従事 (8月, 赤十字社に寄贈)。(4-108)(10-4- 166)	
6. 25 桜楓会, 「家庭週報」(隔週) 発刊。(4- 107, 467)(11-1)		
9. 割烹室改築。(4-86)(10-4-165)(11-6・8・ 11)		
10. 20 松浦 詮より, 茶室および備品の寄付を受		

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1905 (明治38)	ける(翌年4月13日, 茶室開き)。(4-86) (10-4-165, 167~169) (11-1・11・22)	
	10. 22 第4回運動会を本校校庭にて開催。参観者 8,000余名。(10-4-140~157, 166) (11- 8~10)	
	11. 28 森村豊明会より55,000円の寄付を受ける。 その後創立委員等が, 森村豊明会の義挙に 呼応し, 第2次基金を拠出。(1-33~35) (4-110~116) (11-14)	
	12. 9 成瀬校長, 「第二維新を論じて我国教育の 宿弊に及ぶ」を「学報」4号に発表する。 (4-110) (10-4-1~13) (11-14)	
	12. 15 森村豊明会からの寄付に基づく教育学部の 開設を発表。(4-117, 128) (11-14)	
	12. 15 創立委員会, 本校を財団とすることを決 定。(1-34) (4-119) (11-14・25)	
	4. 20 第5回創立記念式。教育学部校舎及び図書 館・講堂定礎式。附属小学校・幼稚園校舎 起工。(4-119, 128) (11-22) 三井寿天寄贈による桜楓館定礎式。(4- 119, 469) (11-22)	9. 日露講和条約調印。 9. 日比谷焼き打ち事件起こ る。 10. 日本キリスト教女子青年 会 (YWCA) 創立。
	5. 14 桜楓会, 「花紅葉」創刊。(11-20) (34)	
	5. 27 本校財団法人となる。(1-35~39) (3-212) (4 -119) (11-25)	
	5. 27 第1回評議員会開催。(11-25)	
	9. 25 桜楓館開館式。(4-469) (11-32・34)	
	10. 7 「家庭週報」34号より週刊となる。(4-470) (11-33・34)	
	10. 12 寮舎共同購買会開設。(1-130) (4-459) (10-	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1906 (明治39)	4-165)(11-36・81)	
	3. 13 麻生学監，北米視察より帰校。(11-52・54)	2. 韓国統監府開庁。
	4. 11 小学校・幼稚園校舎，豊明館（教育学部校舎）および豊明図書館（兼講堂）落成式。 (4-128)(11-39・55~57)	3. 鉄道国有法公布。 ○ 戦後景気。「成金」の語、生まれる。
	4. 27 教育学部，附属豊明小学校（入学児童男女11名），附属豊明幼稚園（入園児男女12名，3か年保育制）開校式。(4-128, 374, 388)(11-58・59)	○ 日露戦争で未亡人多数。 自立のための教育を要望。
	5. 12 桜楓会特別会員 大倉 夏の寄付による幼稚寮開寮（10月，曙寮と命名，1913年閉寮）。 (4-384, 385)(11-61・63・79)	
	5. 12 桜楓会補助団成立。(1-187~190)(4-470)(33)	
	6. 金山に5,000余坪の敷地を購入。寮舎2棟，病室1棟の建築に着手。(4-430)(11-77・85)	
	7. 甲賀ふじ，豊明幼稚園主任保母に就任。 (4-388)(11-66)(33)	
	7. 1 第1回毎月会（西園寺公望はじめ本校評議員を中心とした女子教育研究会）開催。 (4-131)(11-67)	
	7. 15 三井三郎助の厚意による軽井沢三泉寮開寮。(4-418)(11-69・75)	
7. 豊明小学校・豊明幼稚園，豊明母の会開催（以後，隔月に開催）。(4-385)(8-56)(11-67・68)		
10. 大学部の東教室と内寮にはさまれた竹やぶ1,095坪を購入。(11-83)		

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1907 (明治40)	11. 26	本校と桜楓会合同主催の秋季文芸会に常宮, 周宮, 富美宮, 泰宮 各内親王, 閑院宮, 東伏見宮, 山階宮各妃, 北白川姫宮来校。この時, 高等女学校, 徒手体操と自転車乗りを行う(翌年, 記念誌『三つの泉』刊行)。(1-41)(2-63, 91~97)(3-221)(4-135~137)(11-83・84)(34)	
	4. 1	国文学部を文学部と改称。学科内容に人文史を加える。(4-139~144)(11-91)	3. 小学校令改正(義務教育6年となる)。
	4. 1	高等女学校, 自学の方法の具体化として, 学科別教室制を実施。(4-337)	4. 師範学校規程公布(中学校・高等女学校卒業者を入学させる本科第2部を設置)。
1908 (明治41)	4. 13	桜楓会, 図書館完備資金募金のため桜楓会バザーを開く。15日まで。高等女学校も参加, 体操と自転車乗りを行う。(1-33, 195)(4-145, 146, 391, 392, 474)(9-6)(11-92~96)	
	4. 20	第7回創立記念日に藤田伝三郎寄贈の香雪化学館開館式と, 前年開寮の晩香寮(渋沢栄一寄贈)開寮式をあわせ行う。(1-40)(3-214)(4-146~148)(11-96・141)	1. 「婦人之友」創刊。 3. 奈良女子高等師範学校設立。
	5. 1	井上 秀, 家政学研究のため米国に留学。(4-157)(11-139・140・142)	10. 戊申詔書発布。 ○ ミッションスクールの高等女学校への改組多くなる。
1909 (明治42)	9. 16	桜楓会, 女子大学通信教育会を設け, 事業計画を発表。(4-153)(11-154・158)	
	4. 2	第1回若葉会総会, 会則決定。(4-368)(13-47)	4. 帝国女子専門学校(後の相模女子大学)設立認可(9月開校)。
	4. 5	通信講義録『女子大学講義』刊行。同時に	

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1910 (明治43)	<p>機関誌「家庭」創刊。(1-187)(4-152~155)(11-173・174・183)</p> <p>7. 「家庭週報」一時発行中止。(4-155)(11-190)</p> <p>○ 豊明小学校、本年度より豊明談話会開催(児童教育講話会、以後年2~3回開催、1919年まで実施)。(4-385)(8-60)(11-192・209)</p> <p>4. 1 教育学部の内容を変更、家政科ほか3科とする。(4-156, 157)(33)</p> <p>7. 英文雑誌 <i>LIFE</i> 創刊(後、<i>LIFE AND LIGHT</i>。1911年第6号で終刊)。(3-287)(4-158, 159)(34)</p> <p>8. 6 女子教育反動時代に際し、女子高等教育普及のため成瀬校長・渋沢栄一・森村市左衛門、北越地方講演旅行(柏崎・新潟・新津・高田・長岡・上諏訪・長野)。16日帰京。(4-162, 163, 555)</p> <p>10. 18 桜楓会、各寮舎女中のための夜学会を開く。(12)</p>	<p>10. 神戸女学院専門部設立。</p> <p>○ 多くの女学校で女性雑誌の購読を制限。</p> <p>4. 「白樺」創刊。</p> <p>5. 大逆事件起こる。</p> <p>8. 韓国併合。</p> <p>10. 高等女学校令を改正し、実科高等女学校の設置を認める。</p>	
1911 (明治44)	<p>3. 24 教育学部家政科卒業生に、家事科中等教員無試験検定資格を認可される。(1-78~80)(4-157)(28-1)</p> <p>4. 華山寮庭に幼稚園舎落成。(4-385, 388)</p> <p>4. 少女寮(高等女学校生徒寮)開寮、氷香寮と命名。(4-345)</p> <p>4. 1 河野清丸、豊明小学校主任(後主事)に就任。(4-378)(8-55)</p>	<p>3. 工場法公布(1916年施行)。</p> <p>7. 東京女子神学専門学校設立。</p> <p>9. 「青鞥」創刊。</p> <p>10. 辛亥革命始まる。</p>	

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1912 (明治45)	4. 20	創立10年記念式挙行。『日本女子大学の過去現在及び将来』を刊行。(1-191)(4-159, 160)	2. 清朝滅亡。中華民国成立。 2. 同志社女学校専門学部設立。 3. 東京女医学校, 東京女子医学専門学校に昇格。 6. 婦一協会を設立(成瀬仁蔵, 渋沢栄一, 姉崎正治, 浮田和民ら)。 6. 米価急騰。 7. 大正に改元。 ○ 全国高等女学校(含実科高女)総数299(内私立は65校)。
	4. 20	若葉会会誌「若葉」創刊。(4-368)(34)	
	5. 4	創立10年記念講演のため成瀬校長・渋沢栄一・大隈重信・森村市左衛門, 関西(大阪・神戸・京都・岡山)へ出発。(4-163, 555)	
	4. 1	文学部募集中止。(4-158)	
	4. 13	豊明小学校第1回卒業式。卒業生21名。(6-28)(14)	
	5.	松浦政泰, 高等女学校主事に就任。(4-346)	
	6. 8	学芸会に皇太子妃来校。校内巡覧, 松を植える。(4-164, 165, 379)	
	6. 25	「家庭週報」再刊。(4-168)(11-191)	
	7. 10	婦一協会第1回例会。(3-377)(11-192・193・195・196)(29)	
	(大正元)	8. 4 成瀬校長, 女子高等教育視察および婦一協会の趣旨を広めるため欧米旅行に出発。(3-351, 400)(4-166)(11-191・194・203)	
1913 (大正2)	3. 3	成瀬校長, 帰国。(3-400)(4-166)(11-213・214)	2. 第1次護憲運動広がる。 6. 教育調査会設置(文相諮問機関)。 8. 日本女子大学の丹下梅ら3名, 東北帝国大学に合格, 初の帝大女子学生となる。 ○ 「新しい女」の論議おこる。
	6. 30	成瀬校長, 教育調査会会員に任命される。(4-167)(33)	
	7. 29	桜楓会託児所(小石川区久堅町)開所式。(4-486~488)(11-233)	
	9.	各寮舎で電燈使用, 従来のガス燈と併用。(11-239・240)	

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1914 (大正 3)	10. 12	寺田勇吉所有地返却のため豊明寮，体操場移転。(4-167)(11-243)	
	12. 19	豊明寮移転式。ならびに豊明寮の建物の一部を使用した参考館開館式举行。(4-167, 168)(11-251・253)	
	1. 31	成瀬仁蔵著『新時代の教育』(博文館)出版。(4-178)(11-257)(34)	5. 万国婦人参政権大会。 7. 第1次世界大戦始まる。 8. 日本，ドイツに宣戦布告。
1915 (大正 4)	4. 22	午後4時10分講堂屋上から出火，屋根を焼く。(4-168, 392)(11-269)	
	4. 1	高等女学校，自学教授法の研究に基づき，従来の学科別教室制を中止し，自学・協学・実習による自治教育を実施。(4-335~337)(11-302)	1. 中国に対し21か条の要求提出。5月調印。 3. 私立聖心女子学院高等専門学校設立。
	4. 1	豊明幼稚園，2か年保育制となる。吉田けい主任(後，主事)に就任。(4-389)	9. 高田文相，教育調査会に大学令案を諮問。
	5. 30	桜楓会託児所，小石川区久堅町から巢鴨宮下町へ移転，6月5日新築落成式(1928年日暮里託児所に合併)。(4-488~491)(11-311・319~321)	11. 「婦人週報」創刊。 12. 国際婦人平和自由連盟結成。
	6.	麻生正蔵著『家庭教育の原理と実際』(博文館)出版。(11-322)(33)	○ この年中期以降，物価騰貴続く。 ○ 英・米でモンテッソリ教育始まる。
	11. 10	即位礼奉祝式举行。成瀬校長，勲五等瑞宝章を授けられる。(4-170, 172)(11-341・342・346) ○ この頃，河野清丸豊明小学校主事，豊明小学校でモンテッソリ教育法を自動主義として実施。(5-698)(21)	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1916 (大正5)	<p>4. 10 本年度入学者から初めて宣誓式を行う。 (11-561)(33)</p> <p>4. 20 創立第15回記念式並びに桜楓家政研究館起 工式挙行。(4-172)(11-363・364)</p> <p>7. 2 ラビンドラナート・タゴール来校, 講堂で 「ギタンジャリー」朗読。(3-415)(4-174) (11-371~374)</p> <p>8. 16 タゴール, 軽井沢三泉寮で瞑想に関する講 話を行う。21日まで(以後, 1924年, 1929 年に来校)。(3-415)(4-174, 421)(11- 380~386・750・978)</p> <p>8. 31 成瀬仁蔵著『新婦人訓(家庭文庫12)』(婦 人文庫刊行会)出版。(11-385~387)(34)</p> <p>9. 桜楓会修養会「天心団」結成。(4-175, 480)(11-415)</p> <p>○ この頃, 参考館を修養館と改称。(4-480)</p>	<p>1. 「婦人公論」創刊。</p> <p>1. 麻生正蔵ら, 婦人問題研 究会結成。</p> <p>4. 東洋大学(専門学校), 女子の入学を許可。</p> <p>6. 本校を範とし, インドに インド女子大学(現 S. N.D.T.女子大学)設立。</p> <p>8. 「友愛婦人」創刊。</p> <p>9. 工場法施行。</p>
1917 (大正6)	<p>3. 27 科目選択制度採用の件認可。(11-410)</p> <p>4. 1 学則改訂, 科目選択制度の採用, 修学課程 の変更(予科の廃止, 修学基準年限を4か 年とする)。(4-177~186)(11-409~411) 教育学部家政科を廃止し, 師範家政学部設 置。国文学部復活。(4-178)(11-417)</p> <p>4. 5 皇后来校, 桜楓家政研究館他巡覧。校旗制 定。(3-222)(4-175, 176)(11-411・412)</p> <p>4. 7 桜楓家政研究館落成披露式。(4-475)(11- 412)</p> <p>7. 軽井沢夏季寮において成瀬校長, 「軽井沢 山上の生活」10回講義を行う。(3-316, 430)(4-186~188, 421)(11-428~437)</p>	<p>2. 「主婦之友」創刊。</p> <p>9. 臨時教育会議設置。</p> <p>10. 第1回全国小学校女教員 大会。</p> <p>11. ロシア10月革命起こる。 ○ 大正デモクラシー高揚。 ○ 人道主義文学起こる。 ○ 物価騰貴。 ○ 同盟罷業続発。</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1918 (大正7)	9. 21	成瀬校長, 臨時教育會議委員に任命される。(4-190)(33)	
	10. 15	暴風雨災害に際し, 桜楓会臨時託児所を羽田町穴守に開設。以後順次, 大島町, 猿江町, 石島町に開く。11月30日全部閉鎖。(4-489, 490)(11-438~440・442・445)	
	11. 26	成瀬校長, 発病。12月4日腸チフスにて赤十字病院に入院する。(3-512)(4-188, 189)(11-445)	
	12. 27	桜楓会, 物価暴騰に際し, 格安実用品バザー実施。以後7回行う。(4-189)(11-447・449~451・468)	
	2. 18	成瀬校長, 赤十字病院を退院し国府津・熱海で静養。(4-189)(11-455)	3. 東京女子大学設立。
	3. 21	成瀬校長, 静養地より帰校。(4-189)(11-459)	4. 北海道帝国大学設立, 女子学生を選科生として入学許可。
	4. 1	豊明小学校, 本年度より, 入学児童を女児に限る。(6-33)	4. 全国処女会中央部設立。 8. シベリア出兵宣言。
	7.	女子総合大学建設開始を目指し, 基金募集を企図(翌年2月より桜楓会中心に募金活動開始)。(4-194)(11-503)	10. 臨時教育會議, 女子教育に関する答申。
	9.	成瀬校長, 内臓の異常を自覚。(4-195)(11-502)	11. 第1次世界大戦終わる。
	9. 15	成瀬仁蔵著『女子教育改善意見』(博文館)出版。(3-510)(4-190)(11-485)(34)	12. 大学令公布(男子系公私立大学のみ設立認可)。 ○ 母性保護論争起こる。 ○ 米騒動全国に広がる。
1919 (大正8)	1. 13	松浦政泰高等女学校主事, 永眠。(4-207, 208)(11-500~502)	3. 朝鮮, 3・1独立運動起こる。
	1. 17	成瀬校長, 臥床。肝臓癌との診断あり。	3. 活水女子専門学校設立。

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>(3-516)(4-195)</p> <p>1. 28 評議員会開催，成瀬校長の意見により後任校長の件を協議。(3-517)(4-195, 206)</p> <p>1. 29 成瀬校長告別講演，「我が継承者に告ぐ」。(3-517~533)(4-195~200)(11-502)</p> <p>2. 1 成瀬校長へ皇后より病氣見舞い下賜。(3-534)(4-200)(11-502)</p> <p>○ 成瀬校長，この頃，久保田譲の勧めにより，本校の三綱領「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」を揮毫。(3-536)(4-201)(11-507・514)(17)</p> <p>2. 17 成瀬校長の見舞いにジョン・デューイ来校。(11-504)</p> <p>2. 20 ジョン・デューイ，全学園参観。(11-505)</p> <p>2. 25 桜楓会，高村光太郎に成瀬校長胸像，柳敬助に肖像画製作を依頼。(4-210)(11-506)</p> <p>3. 2 総合大学資金として皇后より金1万円下賜。(3-543)(4-201, 202)(11-506)</p> <p>3. 4 午前8時20分，成瀬仁蔵永眠，享年60。特旨をもって従五位を授けられる。(3-545)(4-203)(11-506・507)</p> <p>校長逝去につき本校1週間休業。(3-547)</p> <p>3. 8 教育関係者一同「成瀬氏哀悼女子高等教育問題講演会」開催(湯原元一，沢柳政太郎，金子堅太郎，姉崎正治，内ヶ崎作三郎らの講演。1,600余名参加)。女子総合大学実現援助の決議を行う。(3-546)(4-203)(11-507・508)</p> <p>3. 9 成瀬仁蔵校長の告別式を講堂にて行う。会葬者2,000余名。雑司ヶ谷墓地に埋葬。</p>	<p>5. 中国，5・4運動各地に波及。</p> <p>6. ヘルサイユ講和条約調印。</p> <p>9. 万国女医会結成。</p> <p>10. 第1回国際労働会議(ILO)。</p> <p>○ 労働争議盛ん，婦人労働者も活動。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1920 (大正9)	(3-548)(4-204)(11-507・508)(33)	
	4. 渡辺英一, 高等女学校主事に就任。(4-346)	
	4. 7 麻生正蔵, 第2代校長に就任。(4-206)(11-511)	
	6. 成瀬仁蔵レリーフ(ロシアの女流彫刻家チェレミノフ作)の原型が完成。(11-506・507・522)	
	1. 26 桜楓会第2託児所(日暮里)落成披露式(1945年戦災で焼失)。(4-490)(5-738)(11-537・550)	1. 国際連盟発足。 1. 生活改善同盟会設立。
	1. 29 故成瀬校長告別講演記念日記念会開催(以後継続)。(4-558)(11-553)	2. 慶應義塾大, 早稲田大, 大学令による最初の私立 大学として認可(大正末 年までに22私大認可)。
	3. 4 学内関係者による成瀬校長永逝一周年記念会。(4-558)(11-556)	2. 東京帝国大学, 女子の聴 講生入学を許可。
	4. 20 第20回創立記念式並びに故成瀬校長一周年記念式挙行。柳敬助に依頼の成瀬校長肖像画披露(1923年焼失)。総合大学基金募集に桜楓会会員負担額30万円に達したことを成瀬校長の霊前に報告。(4-210)(11-561~563)	3. 戦後恐慌始まる。 3. 新婦人協会結成。 3. 京都女子高等専門学校設 立。
	7. 豊明小学校校舎(大学正門前の道をへだてた南側)落成, 旧校舎は国文学部教室となる。(6-38~40)(11-570)	4. 同志社大学認可, 女子学 生を選科生として入学許 可。
	8. 3 桜楓会組織変更, 社団法人となる。(4-471)(11-557・579・580)	5. 日本で最初のメーカー。 7. 高等女学校令改正公布 (国民道徳と婦徳養成を 強調, 5年制高女, 高等 科, 専攻科の設置認可)。
	11. 日本女子大学校賛助会成立。(4-211)(11-589)	10. 第1回国勢調査。 ○ 地域婦人団体多数結成。

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1921 (大正10)	4.	大学教育普及事業『女子大学講義』の刊行。(11-611・612合併号・614)	4. 自由学園設立。
	5. 28	主として卒業生のための桜楓会アパートメントハウス落成披露会および開所式(1966年に取り壊し)。(4-481, 482)(11-603・613~617・624)(㊱-177)	4. 文化学院設立。 4. 足尾銅山争議。 5. 婦人平和協会結成(会長井上秀)。
	9. 25	社会事業学部開設(児童保全科, 女工保全科)。(4-211~214)(11-625・628・632) ○ この頃, 豊明小学校, 授業にドルトン・プラン方式採用。(6-41)	12. 明華(後の東洋)女子齒科医学専門学校設立。 ○ 託児所開設, 全国で盛ん。 ○ 不況進む。
1922 (大正11)	3. 29	豊明小学校, 第11回卒業式(男女共学最後の卒業生)。(6-42)(11-658)	2. 海軍軍備制限条約調印。
	4. 20	雑司ヶ谷墓地の成瀬仁蔵墓碑除幕式(碑文撰および書は渋沢栄一, 題字は西園寺公望)。(4-215, 216)(11-660・661)	2. 帝国教育会, 女子高等教育促進大会開催。 3. 神戸女学院, 大学昇格の準備として高等部設置。 3. 同志社大学, 同志社女学校専門学部英文科卒業生に入学許可。 3. 全国水平社設立。 3. 東京女子専門学校(後の東京家政大学)設立。 3. 梅花女子専門学校設立。 4. 日本農民組合結成。 4. 治安警察法改正公布(婦人の政談, 集会を許可)。 6. 福岡県立女子専門学校(最初の公立女子専門学校)設立。

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1923 (大正12)	<p>1. 豊明小学校, 豊明父母会成立。(4-385, 386)(11-700)</p> <p>3. 1923年度以降の英文学部卒業生に英語科中等教員無試験検定資格を認可される。(4-558)(11-705)</p> <p>6. 女子総合大学設立資金募集趣意書発表。(4-222)(11-715)</p> <p>9. 1 関東大震災により, 豊明館, 桜楓家政研究館大破。軽井沢三泉寮滞在中の寮生はそのまましばらく滞在。(4-170, 216)(11-724)</p> <p>9. 5 金山寮に兵士駐屯。(11-724)</p> <p>9. 19 東京市社会局と協力, 桜楓会児童救護所を開設(上野公園小松宮銅像前)。(4-492)(11-724)</p> <p>10. 高等女学校始業式にて, 震災のため授業時間の縮小と, 綿服着用について指示。大学部も綿服着用。(11-725・727)(33)</p> <p>12. 25 学生編集係による「丘」創刊(1935年3月第15号で終刊)。(11-731)(34)</p>	<p>7. 日本共産党結成。</p> <p>7. 東京女子歯科医学専門学校(後の湘南短期大学)設立。</p> <p>9. 文部省, 「女教員産前産後休養ニ関スル件」訓令</p> <p>4. 職業婦人社設立。</p> <p>5. 女子教育振興委員会結成。</p> <p>9. 関東大震災。朝鮮人虐殺事件続発。</p> <p>9. 東京連合婦人会結成。震災の被災者救済活動を行う。</p> <p>11. 国民精神作興に関する詔書を発布。</p>	
1924 (大正13)	<p>2. 大震災修繕費10万円を基金より臨時に支出する。(4-217)</p> <p>4. 1 高等女学校, 本年度より新学習法ドルト</p>	<p>1. 第2次護憲運動起こる。</p> <p>2. 大阪府女子専門学校(公立・後の大阪女子大学)</p>	

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>ン・プランを導入。(4-336, 337)(11-746・747)</p> <p>5. 女子総合大学設立資金募集開始。(4-223)(11-747・749)</p> <p>7. 8 安田修徳会より児童研究所費として10万円の寄付を受ける。(4-283)(11-753)</p> <p>10. 21 国産品奨励展覧会開催(入場者35,000余人。その後、大阪・神戸・京都・名古屋・福岡・横浜などでも開催)。27日まで。高等女学校も参加、出品展示。この間、皇后来校。東伏見宮、竹田宮、東久邇宮、伏見若宮、賀陽宮、昌徳若宮の各妃来校。(4-218~220)(11-757・765~769・771)</p> <p>11. 10 桜楓会児童健康相談所開設。(4-493, 494)(11-759・765・768)</p>	<p>設立。</p> <p>9. 九州帝国大学法文学部設置、翌年4月より女子学生の入学を許可。</p> <p>12. 女子学生連盟結成。大学の門戸開放を文部省に陳情。</p> <p>12. 婦人参政権獲得期成同盟会結成(翌年、婦選獲得同盟と改称)。</p> <p>○ 新感覚派文学起こる。</p> <p>○ 女子高等教育促進運動広まる。</p>	
1925 (大正14)	<p>5. 10 大正天皇、皇后銀婚祝賀に際し賀表、学生制作の屏風献上。(11-791)</p> <p>6. 25 麻生校長、地久節に「母の日」提唱。(4-221)(11-797・800)</p> <p>9. 12 評議員会、1926年度からの高等学部の設定を決議し、準備を進める。(4-223)(11-816)</p> <p>9. 15 桜楓会夜間女学校開校(1910年開始の夜学会より発展。入学資格、12歳以上で尋常小学校の課程を終えた者)。(4-486)(11-802・808・812)</p>	<p>1. 帝国女子薬学専門学校(後の大阪薬科大学)設立。</p> <p>1. 帝国婦人協会実践女学校専門学部(後の実践女子大学)設立。</p> <p>3. 「女子高等教育振興に関する建議案」を衆議院で可決。</p> <p>3. 帝国女子医学専門学校(後の東邦大学)設立。</p> <p>3. 共立女子職業学校専門学部設立。</p> <p>4. 治安維持法公布。</p>	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1928 (昭和3)	5. 16 高等学部の建物内に中央図書館を開く。 (4-392)(11-890・892)	4. 大日本連合女子青年団結 成。
	5. 21 国際連盟協会日本女子大学学生支部発会 式。(4-406, 407)(11-890~892)	4. 蔣介石, 南京に国民政府 樹立。
	8. 教授大橋 広, 高等学部長に就任。(4-227)	5. 山東出兵開始。
		7. 東京家政専門学校設立。
		10. 全国婦人同盟結成。
		11. 聖路加女子専門学校設 立。
	3. 24 国文学部卒業生, 国語科中等教員無試験検 定資格を認可される。(4-559)(28-2)	2. 第1回普通選挙実施(男 子のみ)。
	4. 20 創立25周年記念式挙行, 高等学部開校式。 皇后来校し, 金1,500円他を下賜。(4- 227~230)(11-933~936)	3. 広島女子専門学校設立。
		3. 3・15事件起こる。
		3. 女子経済専門学校(後の 東京文化短期大学)設 立。
4. 20 仁科 節編『成瀬先生伝』(渡辺英一著), 第 25回生編『成瀬先生追懐録』出版。映画 「丘の春秋」製作。(4-210, 230)(11- 932~934)(34)	4. 青山学院(専門学校), 神学部に女子部を設置。	
4. 20 仁科 節編『成瀬先生伝』(渡辺英一著), 第 25回生編『成瀬先生追懐録』出版。映画 「丘の春秋」製作。(4-210, 230)(11- 932~934)(34)	4. 女子英学塾, 本科修了者 のために高等科設置。	
5. 1 創立25周年祝賀式, 教職員・卒業生・学生 合同の内祝会, 記念植樹, 園遊会開催。 (11-934・935)	4. 相愛女子専門学校設立。	
11. 10 麻生校長, 京都における即位式に民間功労 者として参列。教育上の功労により勲五等 瑞宝章を授けられる。本校から書画帖, ク ッション献上。(4-230)(11-959・960・962・	6. 張作霖爆死事件起こる。	
	6. 大阪女子高等医学専門学 校(後の関西医科大学) 設立。	
	8. 汎太平洋婦人会議開催 (日本代表, 井上秀・吉 岡弥生ら)。	
	8. パリ不戦条約調印。	
	10. 和洋女子専門学校設立。	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1929 (昭和4)	<p>965)</p> <p>4. 前年設立の児童研究所、本校の附属研究所となる(所長 松本亦太郎)。(4-283)</p> <p>6. 高等女学校生徒機関誌「歩み」創刊。(4-354)</p> <p>8. 8 化学館において薬品爆発、大事に至らず消火。(11-996)</p> <p>8. 24 軽井沢三泉寮の成瀬仁蔵像(三井高修作)除幕式。(4-423)(11-998・1000)</p> <p>12. 23 浜口雄幸総理大臣来校、講演。(11-1011)</p> <p>12. 校長室、高等女学校校舎内より女性文化展覧会の参考住宅へ移転(現在の七十年館の一角)。(11-1012)</p>	<p>○ この頃より、大学教員や学生の思想弾圧始まる。</p> <p>3. 長野県女子専門学校設立。</p> <p>3. 大学卒の職業難深刻化。</p> <p>4. 東京、広島両文理科大学設立、女子学生の入学許可。</p> <p>4. 明治大学、専門部に女子部を設置。</p> <p>5. 椋山女子専門学校設立。</p> <p>6. 文部省に女子教育調査委員会設置。</p> <p>6. 女子美術専門学校設立。</p> <p>7. 婦人及年少者の深夜業廃止。</p> <p>7. 文部省に学生部設置。思想対策強化。</p> <p>10. 世界恐慌始まる。</p> <p>11. 金解禁。1931年まで。</p> <p>○ 政府、婦人に国民教化の協力を呼びかける。</p>
1930 (昭和5)	<p>3. 22 高等学部第1回卒業式(文科38名、理科12名)。(4-230)(11-1023)</p> <p>4. 11 大学本科開校(修業年限3か年。入学生文学科38名・理学科19名、文学科部長 松本亦太郎・理学科部長 井上 秀)。(4-231~244)(11-1026)</p> <p>5. 26 「日本女子大学校学生歌」発表。作詞・本校学生、作曲・信時 潔。(4-265)(11-1032)</p> <p>5. 31 高等女学校、「都下高等女学校展覧会」に</p>	<p>4. 大谷女子専門学校設立。</p> <p>4. 安城女子専門学校設立。</p> <p>4. ロンドン海軍軍縮条約調印。</p> <p>4. 統帥権干犯問題起こる。</p> <p>4. 第1回全日本婦選大会。</p> <p>5. 婦人公民権法案、衆議院本会議で初めて可決。</p> <p>11. 共立女子薬学専門学校設</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
		<p>参加，出品展示（於 銀座松屋）。6月6日まで。(11-1032・1033)</p> <p>5. 「日本女子大学校」の門標再生，創立当初の田辺太一筆を彫刻家新間静邨浮彫。(11-1031)</p> <p>6. 大学本科・高等学部，内部的に転換の必要性を生じ，評議員会に於いて学制調査委員を選出。(11-1051)(19)</p> <p>7. 学制改革に関し，学制調査委員会を開く。(4-246, 247)(11-1051)</p> <p>10. 18 評議員会，新学制原案（大学本科・高等学部の廃止）を可決。関係学生に発表。(11-1051)(19)</p> <p>10. 学制改正を総合大学建設の意志放棄とみなした関係学生が危惧と不安から集会，休校（府下の一般紙上でも報道）。(4-244~246)(19)</p>	<p>立。</p> <p>11. 昭和女子薬学専門学校設立。</p> <p>11. 東京女子薬学専門学校設置。</p> <p>12. 家庭教育振興に関する件訓令。</p> <p>○ 前年秋からの世界恐慌，わが国にも波及。</p>
1931 (昭和6)		<p>4. 1 本年度より，高等学部学生募集を中止，従来の専門部の学制一部改訂，基礎学を加える。家政学部に第一類，第二類（旧師範家政学部）を設置。(4-243~254)(11-1061)</p> <p>4. 9 麻生正蔵，校長辞任。渋沢栄一，第3代校長に就任，井上 秀，学監に就任。定款を変更して従来の理事1名を理事7名とする（渋沢栄一・阪谷芳郎・三井高修・江口定條・森村市左衛門・塘 茂太郎・井上 秀）。(4-255)(11-1073・1074・1085・1087)</p> <p>5. この頃，本校移転の議起こる。(33)</p> <p>7. 5 千葉県富津町海岸寮開寮式（天心寮と命</p>	<p>2. 東京薬学専門学校女子部設置。</p> <p>3. 大日本連合婦人会結成。</p> <p>3. 地久節を母の日と定める。</p> <p>9. 満州事変起こる。</p> <p>○ 凶作により農村不況深刻化，娘の身売り急増。婦人団体救済運動を始める。</p> <p>○ 女子労働争議増加。</p> <p>○ 学生・生徒の思想取締り</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1932 (昭和7)	<p>名, 1940年廃止)。(4-425)(11-1047・1066・1070・1086)</p> <p>11. 11 第3代校長 渋沢栄一, 永眠。15日, 青山斎場にて葬儀。(4-256)(11-1103・1104)</p> <p>11. 30 井上 秀, 第4代校長に就任(卒業生として初めて校長に就任)。(4-257, 476)(11-1104・1106)</p> <p>10. 15 高等女学校・若葉会合同バザー開催。(11-1149・1152)</p>	<p>事件最多となる。</p> <p>2. 広島女学院専門学校設立。</p> <p>2. 高等女学校令施行規則改正(公民科を設ける)。</p> <p>3. 満州国, 建国宣言。</p> <p>3. 神戸女子薬学専門学校設立。</p> <p>5. 5・15事件起こる。</p> <p>8. 文部省, 国民精神文化研究所を設置。</p> <p>10. 大日本国防婦人会結成。</p> <p>○ 不況で欠食児童増加。一家心中も急増。</p>
1933 (昭和8)	<p>1. 17 初の桜楓会選出の本校評議員就任(岡野隆・上中八重野・大橋 広・星野芳枝・東門千代・志賀 基)。(4-260, 476)(11-1160・1161)</p> <p>3. 23 大学本科第1回卒業式(理学科7名, 文学科22名)。高等学部最後の第4回卒業式(文科13名・理科5名)。(4-243, 244, 246)(11-1171)</p> <p>4. 1 社会事業学部を廃し, 家政学部第三類をお</p>	<p>1. 青山学院女子専門学部設置。</p> <p>1. ドイツでナチス政権成立。</p> <p>3. 日本, 国際連盟脱退。</p> <p>4. 滝川事件起こる。</p> <p>○ アメリカ, ニューディール政策開始。</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1934 (昭和9)		く (課程3年)。(4-260)	
	4. 20	創立第33回記念式, 成瀬仁蔵胸像 (高村光太郎作) 除幕式。(4-262, 482)(11-1162・1168・1174・1175)	
	9. 11	塘 茂太郎常任理事永眠。13日校葬。(4-264)(11-1192・1193)	
	11. 28	高等女学校, 帝国軍人後援会の依頼で慰問袋作製, 献納。(11-1203)	
	1. 7	英文学部入学試験を新制度により施行。全国7ヶ所で8日まで。(11-1210)	3. 満州国帝政実施。
	3. 4	桜楓会, 成瀬先生遺品保存会設立。(4-264, 265)(11-1215)	5. 家庭科学研究所設立。
	3. 4	成瀬仁蔵生誕地に記念碑建立, 除幕式を挙行 (桜楓会山口支部)。(4-482)(11-1212・1215・1217)	6. 文部省, 思想局設置。
	4. 1	高等女学校, 4・5年生に公民科を実施。(4-336)	6. 女子教育振興会発会。
	4.	高等女学校, 校章使用開始。(11-1251)	9. 母性保護法制定促進婦人連盟結成。
	9. 21	本校移転地, 西生田 (神奈川県橘樹郡稲田町字菅, 107,460坪)に決定。(4-268)(11-1240・1242・1267)	○ 東北地方を中心に大凶作。婦人団体など救済運動展開。
	11. 26	式服制定。(11-1248)	
	12. 20	校章制定 (いぶし銀製)。(4-561)(11-1251)	
	12.	豊明小学校校章使用開始。(6-66)(11-1251)	
1935 (昭和10)	3. 22	英文学部, シェイクスピア劇第1回上演 (以後, 毎年行う。1937年より九段会館で公演, 1942年から戦争のため中止)。(4-	2. 美濃部達吉の天皇機関説問題化。
			4. 青年学校令公布。

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1936 (昭和11)	<p>322)(11-1261・1262)</p> <p>4. 20 校歌作成発表 (33回生作詞, 東京音楽学校作曲)。(4-265~267)(11-1266)</p> <p>9. 12 桜楓会夜間女学校卒業者に, 高等女学校卒業の資格を認可される (1937年度をもって閉校)。(4-486)(11-1292)</p> <p>12. 23 本校移転地, 西生田道路工事開始。(11-1293・1296)</p> <p>○ この頃, 豊明小学校, 制帽制定。(6-67)(8-283)</p> <p>○ この年, 豊明幼稚園, 園章使用開始。保健給食開始。(4-389)(11-1251)</p> <p>1. 18 本校移転地, 西生田道路の地鎮祭。(11-1296)</p> <p>3. 23 大学本科最後の第4回卒業式(文学科1名・理学科1名)(4-244)(11-1304)(19)</p> <p>4. 家政学部・国文学部・英文学部に研究部設置。(4-270)(11-1305・1307・1310)</p> <p>4. 9 高等女学校, 本年度1年生より, 3組編成となる(従来2組編成。高等女学校総定員数を500名から750名に増加)。(4-337)(11-1306・1315)</p> <p>4. 20 桜楓会, 『成瀬先生記念帖』刊行。(4-265, 484)(11-1305~1307)(34)</p> <p>○ 豊明小学校, 校舎一部移転修築(道路拡張のため)。(6-68)</p>	<p>8. 中国共産党, 抗日救国統一戦線を提言(8・1宣言)。</p> <p>8. 政府, 国体明徴声明発表。</p> <p>○ 小作争議件数, 戦前最高。</p> <p>2. 2・26事件起こる。</p> <p>3. 内務省, メーデー禁止通達。</p> <p>11. 日独防共協定調印。</p>
1937 (昭和12)	<p>3. 3 総合大学実現のため皇后より金一封下賜。(4-274, 275)(11-1342・1343)</p>	<p>3. 母子保護法公布。</p> <p>7. 日中戦争起こる。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>3. 22 英文学部島田重祐教授引退記念寄付による「島田賞」設定(英文学部奨学金)。(4-321)(11-1345)</p> <p>5. 6 井上校長, 欧米教育視察のため出発。10月28日帰国。(4-275)(11-1348~1350・1369)</p> <p>5. 高等女学校若葉会会誌, 第11号より新聞様の「わかば」となる。(4-370)(11-1354)</p> <p>7. 15 西生田校地内, 道路工事着手。地鎮祭举行。(11-1359)</p> <p>9. 14 大学部・高等女学校, 学校防護団結成。17日に演習実施。(11-1363・1364)</p> <p>11. 7 第28回運動会, 全学園合同で開催(旧学制下での全学総合運動会の最終回)。(11-1369・1370)</p> <p>12. 7 高等女学校, 勤労奉仕作業実施(肩章作り)。(11-1374・1375)(33)</p>	<p>7. 文部省教学局設置。</p> <p>9. 日本婦人団体連盟結成。</p> <p>10. 国民精神総動員中央連盟結成。</p> <p>11. 日独伊三国防共協定を締結。</p> <p>12. 日本軍, 南京を占領。大虐殺事件を起こす。</p> <p>12. 教育審議会設置。</p> <p>○ 各方面で思想統制強まる。</p>
1938 (昭和13)	<p>2. 16 豊明小学校, 保健食の給食実施。(4-382)(6-71)(11-1383)</p> <p>4. 1 豊明小学校, 本年度1年生より2クラス制となる。(6-72)</p> <p>6. 1 西生田で大学部生徒による勤労奉仕作業開始(校地の開墾, 植えつけ)。(4-277)(11-1396)</p> <p>6. 17 日本女性文化史研究所を国文学部内におく。10月5日開所式を行う。(4-330)(11-1407)</p> <p>7. 11 高等女学校, 勤労奉仕作業実施(白衣の紐作り, 戦闘帽の穴かがり, 肩章作りなど)。16日まで。(11-1400)</p>	<p>3. 朝鮮教育令改正。</p> <p>3. ドイツ, オーストリアを併合。</p> <p>4. 国家総動員法公布。</p> <p>6. 文部省, 集団的勤労作業運動実施通達。</p> <p>7. 全国各女学校・各女子専門学校, 勤労奉仕はじまる。</p> <p>11. 国民精神作興週間始まる。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1939 (昭和14)	7. 11 豊明小学校, 校内で夏期修養会開催。20日まで。(6-74)(11-1399・1400)	
	7. 16 本校四十年史編纂開始。(4-凡例, 561)(11-1405・1418・1437)	
	10. 7 大学部生, 慰問袋作製。以後, 全学園生徒により随時作製, 献納。(11-1406・1408)	
	10. 西生田グラウンド竣工。日輪舎, 学生も参加し建築を開始。(4-279)(4-561)(11-1409・1411)	
	11. 5 第1回「山の集い」, 全学合同で開催(於西生田校地。運動会, 勤労奉仕, 新校地紹介)。(4-277~279)(11-1408~1410)	
	12. 1 「戦時家庭経済展覧会」開催, 7日まで(於三越本店。その後, 全国13都市で開催)。(4-279, 280)(11-1409・1411~1413・1416・1426)	
	3. 4 桜楓会, 『成瀬先生講演集』全10冊刊行開始(翌年8月最終巻刊行)。(4-485)(11-1423~1425)(34)	4. 米穀配給統制法公布。 5. ノモンハン事件。 5. 青少年学徒に賜りたる勅語下賜。
	4. 19 西生田校地で木植え式挙行。(11-1428・1429)	7. 国民徴用令公布。
	6. 15 百億貯蓄強調週間に際し, 戦時家計・生活刷新相談所開設, 「大人紙芝居」実演(於東京市内デパート9か所)。21日まで。その後主要都市でも開催。(4-280, 281)(11-1434~1436)	9. ドイツ, ポーランドに進撃開始。第2次世界大戦始まる。
	6. 21 西生田新寮第1寮開寮式挙行。(4-282)(11-1436・1437)	10. 女子に対する労務動員計画実施。
	7. 豊明小学校, 軽井沢三泉寮で夏期修養会開	○ 生活に関する規制がすすむ。

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1940 (昭和15)	<p>催(5・6年生参加, 1942年まで実施)。 (6-76)(8-96)(11-1439)</p>	
	<p>9. 29 高等女学校, 西生田校地で草取りと栗拾い 作業実施。(11-1443)</p>	
	<p>10. 4 井上校長・大橋家政学部長, 満州開拓民の 実状並びに教育状況視察のため満州および 北支出張。11月3日まで。(11-1445・1449・ 1451・1454)</p>	
	<p>11. 20 第2回「山の集い」, 全学園で開催。(4- 279)(11-1449・1451)</p>	
	<p>11. 25 「生活刷新大人紙芝居」を皇后に献上。 (4-281)(11-1451)</p>	
	<p>5. 14 高松宮・同妃, 秩父宮妃, 西生田視察。金 一封下賜。(4-282)(11-1468・1469)</p>	<p>3. 天理女子専門学校設立。 5. 国民優生法公布。</p>
	<p>5. 15 李王家より女子総合大学基金として金一封 下賜。(11-1469)</p>	<p>9. 教育審議会, 大学令によ る女子大学創設を答申。</p>
	<p>5. 28 久邇宮大妃・東伏見宮妃, 西生田視察。 (4-282)(11-1471)</p>	<p>9. 第1回家庭教育研究会。 9. 日本軍, 仏印(北部)に進 駐。</p>
	<p>6. 1 李王・同妃, 西生田を視察。(4-282)(11- 1472)</p>	<p>9. 日独伊三国軍事同盟調 印。</p>
	<p>7. 豊明幼稚園園舎移築(小学校運動場拡張の ため)。(4-389)(6-77)(11-1476)</p>	<p>10. 大政翼賛会発会。</p>
	<p>11. 10 井上校長, 紀元2600年奉祝式に参列。女子 高等教育に関する功勞により勲五等瑞宝章 を授けられる。(4-289)(11-1489・1490)</p>	<p>11. 厚生省, 優良多子家庭を 表彰。 11. 紀元2600年式典挙行。</p>
	<p>11. 18 日本女子大学校報国団結成発表会。(4- 294, 309, 310, 408~413)(11-1489)</p>	<p>11. 大日本産業報国会発会。</p>
	<p>11. 児童研究所, 機構拡充。(4-283~289)(11- 1487・1490)</p>	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1941 (昭和16)	<p>12. 4 高等女学校, 紀元2600年を記念し, 研究発表会・展覧会・再生品即売会を開催。(11-1490)</p> <p>1. 9 西生田新校舎地鎮祭。(5-36)(11-1495)</p> <p>1. 16 井上校長, 大日本青少年団副団長に就任。(4-289)(5-52, 748)(11-1496)</p> <p>2. 11 日本女子大学校報国団結団式を行う。(5-62)(11-1498)</p> <p>2. 高等女学校, 慰問袋作製。(11-1499)</p> <p>4. 1 豊明小学校, 国民学校令により豊明初等学校と改称。(5-15, 16, 68, 670)(6-78, 79)(8-97)(11-1507)</p> <p>4. 20 創立40周年記念式挙行。(5-35)(11-1506)</p> <p>4. 高等女学校報国団結成。(11-1512)</p> <p>4. 校章改定(従来のいぶし銀から真鍮となる)。(33)</p> <p>5. 児童研究所に知能相談部を置く。(5-56, 57)(11-1508)</p> <p>6. 5 川田 順の寄付による川田文庫開庫式。(4-393)(11-1507・1511・1513)</p> <p>6. 25 高等女学校, 失明軍人慰安音楽会開催(於講堂)。(11-1515)</p> <p>6. 30 西生田に新築の校舎, 寮舎の上棟式を行う。(5-16, 36)(11-1515)</p> <p>8. 3 教職員第1回防空訓練。6日まで。(5-16)(11-1518)</p> <p>10. 22 全校生徒防空訓練。(5-16)(11-1530)</p> <p>10. 豊明初等学校, 防空訓練・避難訓練開始。(6-100)</p>	<p>1. 大日本青少年団結成。</p> <p>1. 人口政策確立要綱決定。</p> <p>2. 山口県立女子専門学校設立。</p> <p>3. 国民学校令公布。</p> <p>3. 帝国女子理学専門学校(初の女子理学専門学校, 後の東邦大学)設立。</p> <p>4. 日ソ中立条約調印。</p> <p>4. 男女中等学校, 全国制服化。女学生はヘチマ襟。</p> <p>7. 保健婦規則公布。</p> <p>7. 文部省, 『臣民の道』刊行。</p> <p>7. 日本軍, 仏印(南部)に進駐。</p> <p>8. 学校報国団の体制確立を訓令。</p> <p>10. 大学, 専門学校, 高等師範学校, 実業学校等の修業年限臨時短縮(本年度3か月, 次年度6か月)に関する勅令公布。</p> <p>11. 国民勤労報国協力令を公布。</p> <p>12. 日本軍, ハワイ真珠湾を攻撃(太平洋戦争始ま</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1942 (昭和17)	11. 6	岡崎忠雄評議員より、100万円の寄付を受ける。披露感謝会開催。(5-16)(11-1531・1532)	る)。 12. ドイツ・イタリア、米國に宣戦布告。
	11.	豊明初等学校、校歌制定。(6-83)(11-1525・1531)	○ 防空頭巾・もんぺ・ゲートルの非常時服姿急増。
	12. 27	卒業期3か月繰上げにより、卒業証書授与式挙行。希望者には、以後3か月間の補習授業を行う。(5-16, 37, 95, 96)(11-1539)	
	2. 1	高等女学校4・5年生、10日間陸軍被服廠へ勤勞奉仕。(11-1543)	2. 生活必需品等点数切符制を実施。
	3.	西生田校舎・講堂・寮舎(第2, 第3寮)竣工。(5-14)(11-1548)	2. 大日本婦人会結成。
	3.	河野清丸、豊明初等学校主事退任。(6-85)	3. 東京に初の空襲警報。
	4.	西原慶一、豊明初等学校主事に就任。(6-85)(11-1550)	3. 高等女学校教授要目を改定。
	4. 8	西生田講堂において、本年度移転の家政学部第一類・第二類の4年生、国文学部・英文学部の2年生の始業式を行う。(5-19, 37~43)(11-1550)	3. 大妻女子専門学校設立。 5. 戦時家庭教育指導要項制定。
	4. 20	『日本女子大学校四拾年史』刊行。(5-47, 48)	5. 翼賛政治会結成。 6. ミッドウェー海戦。戦局の転機となる。
	5. 10	西生田講堂において新校舎落成披露式を挙行、40周年祝歌斉唱、午後各種記念行事。(5-19, 43~45)(11-1554)	6. 農村の生活共同化運動起こる。 7. 文部省、高等女学校の外国語科を随意科目とする。
	5. 13	目白において、附属各校および大学部の内祝い行事。14日まで。(5-45)(11-1555)	12. 大日本言論報国会設立。
	5. 16	橋田邦彦文部大臣、西生田を視察。(5-20, 46)(11-1555)	○ 国家的母性讃歌の図書多数出版される。
	5. 20	桜楓会総会を西生田で開催。桜楓会員及び	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>若葉会員を招待，新築披露を行う。(5-20, 45, 46, 736)(11-1554・1556)</p> <p>5. 豊明初等学校報国団結成。(6-87, 88)</p> <p>6. 8 高等女学校3年生，慰問袋作製，陸軍省へ届ける。(11-1559)</p> <p>6. 17 川崎市菅部落農繁期臨時託児所で奉仕活動実施(家政学部生，桜楓会員)。7月3日まで。(5-49)(11-1557・1559~1562)</p> <p>7. 10 皇太后より，本校40周年を祝し金一封下賜。(5-20, 47)(11-1563)</p> <p>9. 11 高等女学校4年生，陸軍被服廠他へ勤勞奉仕。20日まで。(11-1569)</p> <p>9. 30 卒業期6か月繰上げにより卒業証書授与式挙行。(5-20, 96, 97)(11-1569・1571)</p> <p>10. 20 高等女学校5年生，「聖地」巡拝旅行(伊勢神宮他関西方面)。25日まで。(11-1573)</p> <p>11. 川崎市菅・細山両地域農繁期託児所及び共同炊事に協力・指導(研究生・家政学部生・児童研究所・桜楓会員，以後，1944年秋まで春秋の農繁期に奉仕活動実施。桜楓会主催)。(5-50, 51, 87, 90)(11-1576・1598・1603・1609・1613)</p> <p>12. 8 全学園で各々に開戦1周年記念の行事を行う。(11-1580・1581)</p> <p>12. 8 日本女子大学校国民貯蓄組合結成。(11-1582)</p> <p>12. 25 井上校長，大橋家政学部長，華北の教育指導・教科書編集のため北京へ出発(翌年1月31日帰京)。(5-54)(11-1583・1587)</p>	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1943 (昭和18)	<p>1. 21 高等女学校3年生, 陸軍兵器補給廠へ勤勞奉仕。30日まで。(11-1584)</p> <p>3. 19 豊明初等学校, 校旗設定式挙行。(6-94)(11-1591)</p> <p>4. 校章改定(真鍮から現在の七宝焼きとなる)。(11-1594)</p> <p>4. 豊明初等学校, 校章改定。(6-98)</p> <p>6. 14 秩父宮妃, 皇后の名代として西生田本校・細山託児所その他を視察。(5-23, 51, 52)(11-1598)</p> <p>7. 4 豊明初等学校, 奥多摩禊道場で錬成寮開催。27日まで(6年生参加)。(6-100)(8-106~108)(11-1599・1600)</p> <p>7. 12 国文学部3年生・家政学部第二類1・2年生, 凸版印刷へ勤勞動員。7月31日まで。(11-1599・1600)</p> <p>7. 17 高等女学校, 救急・看護訓練, 待避壕掘りを行う。18日まで。(11-1599)</p> <p>8. 2 「満州国」開拓村に生活建設協力隊として, 家政学部4年生33名, 勤勞奉仕に赴く。31日まで。(5-61)(11-1598~1601)</p> <p>8. 2 高等女学校4年生, 葛原工業場へ勤勞動員。14日まで。(11-1600)</p> <p>9. 28 卒業証書授与式挙行。新卒業生皆働配置につく。(5-23, 97, 98)(11-1601)</p> <p>10. 1 国文学部・英文学部全学生西生田に移転。(5-23, 98)(11-1601)</p> <p>10. 21 学徒出陣壮行会に全教職員・全生徒参加。(5-61)(11-1602)</p> <p>11. 16 井上校長, 北京に赴く。12月初旬まで。</p>	<p>1. 名古屋市立女子高等医学専門学校設立。</p> <p>1. 大学令改正, 予科年限2年となる。</p> <p>1. 中等学校令改正公布(中学校令・高等女学校令・実業学校令を廃止)。</p> <p>1. 京浜女子家政理学専門学校(後の鎌倉女子大学)設立。</p> <p>2. 日本軍, ガダルカナル島撤退開始。</p> <p>3. 高等女学校規程制定(修業年限4年に短縮)。</p> <p>3. 日本女子神学校(専門学校)設立。</p> <p>4. 府立女子専門学校設立。</p> <p>6. 学徒戦時動員体制確立要綱決定。</p> <p>7. 東京都制実施。</p> <p>9. イタリア, 無条件降伏。</p> <p>9. 女子勤勞挺身隊動員始まる。</p> <p>10. 学校報国団本部, 学徒出陣壮行会挙行。</p> <p>12. 徴兵適齢1年引下げ。</p> <p>○ この年, 文部省の母親学級広がる。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1944 (昭和19)	<p>(5-23, 54) (11-1603)</p> <p>12. 学業年限短縮の時間不足を補うため冬休み廃止。(5-66) (11-1604)</p> <p>1. 4 学校工場開設 (英文館使用)。家政学部生委託の作業を行う。(5-23, 65) (11-1604~1606)</p> <p>1. 8 高等女学校挺身隊, 海軍省に配置。壮行会開催。(11-1605)</p> <p>1. 10 国文学部・英文学部の1・2・3年生, 陸軍省へ勤労報国隊として参加。31日まで。(5-24) (11-1607)</p> <p>2. 20 高等女学校, 「フィリピン展覧会」開催, 研究発表。同日, 更生手芸品即売会開催, 純益を愛国機献納金とする。(5-66) (11-1607)</p> <p>2. 21 高等女学校3年生, 兵器製作工場へ勤労奉仕。3月5日まで。(5-66) (11-1607)</p> <p>3. 豊明初等学校の学童約1割が縁故疎開開始(3月現在在学者数460名)。(11-1608)</p> <p>4. 1 新学則発足, 修業年限3年となる。家政科に育児科・保健科・家政理科・管理科を, 文科に国語科・歴史科・外国語科(英語)を設置。(5-70~72) (11-1607)</p> <p>4. 1 本校児童研究所に桜楓会児童相談所を合併。(5-56, 737) (11-1608)</p> <p>4. 29 第1次勤労動員壮行会開催(於 目白)。家政科4年生, 海軍技術研究所他へ勤労動員。以後, 通年動員となる。(5-87) (11-1609)</p>	<p>1. 文部省, 女子専門学校刷新要綱(修業年限3年)発表。</p> <p>2. 京都府立医科大学附属女子専門部設置。</p> <p>2. 大阪女子経済専門学校設立。</p> <p>2. 岡山清心女子専門学校設立。</p> <p>3. 決戦非常措置要綱に基づく学徒動員実施決定。</p> <p>3. 光華女子専門学校設立。</p> <p>3. 明治女子専門学校設立。</p> <p>3. 日本女子経済専門学校(後の嘉悦女子短期大学)設立。</p> <p>4. 東京都, 幼稚園休園を決定。</p> <p>4. 東京女子体育専門学校設立。</p> <p>5. 文部省, 学校工場化実施要綱発表。</p> <p>6. マリアナ沖海戦。</p> <p>6. 政府, 国民学校初等科の児童の集団疎開の促進強化を決定。</p> <p>8. 学徒勤労令, 女子挺身勤</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>4. 豊明初等学校、保健食を改め、学校給食として実施。(5-671)(6-105)(11-1607)</p> <p>5. 22 第1次勤労働員壮行会(第2陣)開催(於西生田)。文科3・4年生、陸軍第一造兵廠他へ勤労働員。(5-87)(11-1609)</p> <p>6. 8 岡部長景文部大臣、目白の本校を視察。23日、西生田の本校も視察。(5-84~86)(11-1609・1610)</p> <p>6. 30 第2次勤労働員壮行会。1年生を除く全大学部生配置につく。(5-87, 88)(11-1610)</p> <p>6. 豊明幼稚園、臨時閉園となる(1947年5月再開)。(5-698, 699)(11-1613)</p> <p>7. 6 高等女学校5年生、勤労働員。壮行会開催。(5-88)(11-1610)</p> <p>7. 12 豊明初等学校集団疎開学園後援会発足。(6-106)(8-109)</p> <p>8. 1 高等女学校3・4年生、兵器製作工場へ勤労働員。(11-1611)</p> <p>8. 16 豊明初等学校学童3年生以上100名、軽井沢に集団疎開。(5-94, 671)(6-106~117)(8-112)(11-1611)</p> <p>9. 4 軽井沢三泉寮にて疎開学寮開校式。(6-107)(8-116)(11-1612)</p> <p>9. 25 卒業証書授与式挙行。(5-99)(11-1612)</p> <p>9. 28 1年生、勤労働員につき壮行会開催。(5-89~90)(11-1612)</p> <p>10. 31 神戸市で岡崎忠雄の寄付による、日本女子大学校附属神戸高等女学校建設定礎式挙行(建設は中止、1954年校地を神戸市へ売却)。(5-91, 154)(11-1613)</p>	<p>労令施行。</p> <p>10. レイテ沖海戦。</p> <p>11. B29, 東京初空襲。</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1945 (昭和20)	11. 1	高等女学校実習機関として、戦時保育所を開所。閉園中の豊明幼稚園施設を使用。 (11-1613)	
	○	この頃から寮舎付近に焼夷弾落ちる。近隣住民の協力を得て消火。(33)	
	2. 19	豊明初等学校全残留児童、西生田へ集団疎開(1~5年生, 98名, 西生田学寮開寮)。 (5-671)(6-114)(8-117~119)	2. ヤルク会談。 3. 東京大空襲。 3. 決戦教育措置により、国民学校初等科以外の授業を1年間停止。
	3. 8	西生田学寮閉寮。(5-671)(6-114)	3. 恵泉女子農芸専門学校設立。
	4.	大多和たけ、高等女学校主事に就任。(5-756)	3. 大和女子農芸専門学校(後の大和学園聖セシリア女子短期大学)設立。
	4.	西生田に学校工場開設。8月まで。(7-41)	4. 米軍、沖縄本島に上陸。
	5. 2	全残留児童、軽井沢学寮へ入寮。(5-671)(6-115)	4. 広島女子高等師範学校設立。
	6.	軽井沢三泉寮に疎開の大学部生、周辺農家に勤労働員。(33)	5. ドイツ、無条件降伏。 5. 戦時教育令公布。
	8. 15	講堂に集合、終戦の詔書の放送を聞く。(33)	6. 沖縄戦下、多くの女生徒死傷。
	9. 28	皇太后、軽井沢豊明疎開学寮視察。(5-671)(6-116)(11-1614)	8. 広島、長崎に原子爆弾投下。
	10. 23	三笠宮・同妃、軽井沢豊明疎開学寮視察。(6-118)(11-1614)	8. 日本、ポツダム宣言を受諾。第2次世界大戦終わる。
	10. 24	軽井沢学寮閉寮。(5-671)(6-118)(8-123, 124)	9. 降伏文書調印。
	10.	大学部授業開始を通知。疎開などのため出席不能者多く、開始は予定より遅延。(33)	10. GHQ、民主化のための5大改革指令(婦人解放)
	11. 1	豊明初等学校、軽井沢集団疎開から帰京。(6-118)	
	11. 12	豊明初等学校、授業再開。新校歌制定。	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1946 (昭和21)	(5-671)(6-118, 119)(8-125, 126)	を含む。
	12. 19 井上校長, GHQ CIE (連合国軍総司令部民間情報教育局) を訪ね, 大学昇格への助言を求める。(20)	10. GHQ, 教育制度に対する管理政策。
	12. 28 GHQ CIE女子教育担当官らが視察のため来校 (以後, 数度来校)。(20)	10. 国際連合発足。
		11. 財閥解体。
		11. ユネスコ憲章採択。
		12. 閣議, 女子教育刷新要綱を了解 (男女共学・女子に高等教育実施)。
		12. 農地改革指令。
		12. 労働組合法公布。
		1. 天皇, 神格化を否定。
		1. GHQ, 軍国主義者の公職追放を指令。
		2. 第1次農地改革開始。
		2. 日本農民組合結成。
	2. 金融緊急措置法公布。	
	2. 文部省, 女子専門学校卒業業者等の大学入学資格を認める。	
	1. 11 豊明初等学校, 修身, 国史, 地理教科書の回収, 処理。(6-125)	3. 第1次米国教育使節団, 報告書を提出。
	1. 15 1944年11月15日以降休刊の「家庭週報」再刊。(5-107, 171, 245, 738)(11-1614)	4. 戦後第1回総選挙, 初の婦人参政権行使。
	3. 4 大学令に基づく日本女子大学設置認可申請書を文部省に提出 (時期尚早として認可されず)。(5-110~112)(20)	5. 極東国際軍事裁判開廷。
	3. 20 米国教育使節団婦人代表ホートン博士来校, 本校講堂で生徒にメッセージをおくる。(5-180)(11-1615)	8. 日本労働組合総同盟結成。
	3. 25 大学部, 高等女学校, 豊明初等学校合同卒業式。(5-106)(11-1615)	8. 教育刷新委員会設置。
	4. 1 学科編制改正。家政科 生活科学科・生活芸術科・児童学科・社会福祉科・家政理科, 文科 国語国文科・英語英文科・歴史科。修業年限4年となる。(5-31~32)	10. 第1回女子大学連盟準備会議。
	4. 豊明初等学校, 給食開始。(6-128)	
	6. 8 井上校長, 日本女子大学設立に関し桜楓会総会にて報告。(5-109~112, 171)(11-1615)	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1947 (昭和22)	11. 6 教職追放により、井上校長退任。(5-33, 113, 114, 748)(11-1617)	10. 大学婦人協会結成。
	11. 29 大橋 広, 豊明初等学校長, 豊明幼稚園長に就任。(5-33, 117)	10. 大学設立基準設定協議会 第1回会議。
	11. 校長就任問題に関し、生徒間に動揺。(11-1617)	11. 日本国憲法公布。
	12. 7 大橋 広, 高等女学校長に就任。(5-33, 117, 749)	○ この年よりインフレが急速に進行。食糧難続く。
	12. 豊明初等学校, 校章改定。(6-130)	
	1. 大橋 広, 大学設立基準設定協議会女子大学分科会協議員となる。(20)	1. 大学設立基準設定協議会, 新制大学設立基準の審議を開始。文科系・理科系・女子大学の3分科会を設置。
	1. 28 本校, 大学設立基準設定協議会女子大学分科会家政学部委員会の責任担当となり, 東京女子高等師範学校(現 お茶の水女子大学)教員とともに家政学部設置基準案作成に着手。(20)	1. 2・1ゼネスト中止指令。
	3. 1 学生食堂を桜楓会経営により再開。(5-739)(11-1618)	3. 戦後初の国際婦人デー。
	4. 14 大橋 広, 日本女子大学校第5代校長に就任。(5-33, 117, 749)(11-1619)	3. 教育基本法・学校教育法公布。
	4. 15 附属中学校(新制)創立, 第1回入学式挙行。大多和たけ, 初代主事に就任。(5-118, 135, 637)	4. 義務教育, 6・3制の新学制となる。
	4. 豊明初等学校, 校名を日本女子大学校附属豊明小学校に復す。18日入学式。(8-128)(5-118, 135, 672)	4. 労働基準法公布。
	4. 豊明幼稚園園舎は, 自警団詰所となる。(5-699)	4. 独占禁止法公布。
	5. 附属豊明幼稚園再開。高橋サグ, 主事に就	4. 第1回参議院議員選挙。
		4. 第1回女子大学連盟会議。
		5. 日本国憲法施行。
	6. 日本教職員組合結成。	
	7. 大学基準協会発足。	
	8. 大学設置基準設定協議会, 家政学部設置基準案	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1948 (昭和23)	任。(5-699, 700)	を承認。
	8. 2 大橋校長, 学園充実のために全国の桜楓会 支部訪問を開始(1949年まで)。(5-179, 181, 739)(11-1620・1621)	9. 労働省発足, 婦人少年局 設置。
	8. 9 豊明小学校, 軽井沢三泉寮で夏期修養会開 催。13日まで(6年生参加)。(5-672)(6- 134)	9. 文部省, 通信教育認定規 程公布。
		10. 不敬罪・姦通罪廃止。
	3. 1 日本女子大学設置認可申請書を文部大臣に 提出。(5-134, 181)(20)	12. 児童福祉法公布。
	3. 3 豊明小学校, ひなまつり学芸会を開催(以 後, 春の音楽会開催)。(5-672)(6-136)	12. 改正民法公布。
	3. 4 桜楓会, 大学設備充実後援会を設立し, 募 金目標700万円に向けて積極的活動を開始。 (5-192)(11-1621・1622)	○ 社会科, 家庭科の新科目 設置。
3. 25 日本女子大学(新制)設置認可。(5-134, 181)	1. 大学設置委員会設立(翌 年, 大学設置審議会と改 称)。	
	3. 文部省, 公私立12新制大 学を認可(内女子5大学 一日本・津田塾・東京・ 聖心・神戸女学院)。	
	3. 日本私立大学協会発足。	

日本女子大学〈新制〉 (1948~2001.4)



年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1948 (昭和23)	<p>4. 1 日本女子大学発足（家政学部・児童学科，食物学科，生活芸術科，社会福祉学科，家政理学科一部，家政理学科二部，文学部・国文学科，英文学科，史学科）（新1年生は旧専門学校2年生より，新2年生は旧専門学校3年生より移行）。（5-181, 193, 194）（11-1620）</p> <p>4. 1 大橋 広，日本女子大学学長に就任。（5-122, 749）</p> <p>4. 1 河村サダ，中学校主事に就任。（5-638）</p> <p>4. 26 附属高等学校（新制）発足し，第1回入学式挙行（目白校，西生田校）。山崎 かね，初代主事に就任。（5-118, 138, 616, 617）本年度より，西生田校舎は高等学校校舎として使用。大学部は目白へ移転。（5-616）（7-34）</p> <p>5. 20 大学昇格記念式，および祝賀会・記念祭。24日まで。（5-138, 169, 182~193）（11-1622） 記念式祝歌発表（古田夏子作詞・一宮道子作曲，以後校歌に制定）。（5-611）</p> <p>9. 豊明小学校父母会解散，豊明小学校PTA発足。（5-672）</p> <p>9. 日本女子大学通信教育部設立（通信教育部長 市村今朝蔵）。（5-219）（11-1623）</p> <p>10. 1 日本女子大学家政学部通信講座設置認定（児童学科・食物学科・生活芸術科）。（5-138, 213, 219~221, 223, 226）（11-1623）</p> <p>10. 西生田校地のうち17,000余坪が自作農創設特別措置法により神奈川県に買収される。</p>	<p>4. 新制高等学校発足。</p> <p>4. 児童福祉法施行。</p> <p>6. 全国PTA協議会結成。</p> <p>7. 優生保護法公布。</p> <p>7. 教育委員会法公布。</p> <p>8. 大韓民国成立。</p> <p>9. 朝鮮民主主義人民共和国成立。</p> <p>9. 主婦連合会結成。</p> <p>9. 全日本学生自治会総連合（全学連）結成。</p> <p>12. 国連総会，「世界人権宣言」採択。</p> <p>○ 公共料金など値上げ続く。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1949 (昭和24)	<p>(5-135, 136)</p> <p>1. 10 日本女子大学通信教育部開講。第1期生入学，補助教材「女子大通信」創刊，補助雑誌「いづみ」創刊（1956年まで）。(5-123, 179, 223; 226, 346, 351) (11-臨時増刊通信教育)</p> <p>1. 17 上代タノ教授，大学行政，図書館，平和問題等視察のため渡米。10月29日まで。(5-138, 233, 750) (11-1625・1628)</p> <p>1. 27 図書閲覧室落成式。(5-136, 138) (11-1624)</p> <p>1. 27 桜楓会奨学金授与式。(5-138, 739)</p> <p>3. 20 「日本女子大学新聞」（日本女子大学学生新聞部）創刊（後に「日本女子大学生新聞」と改称）。(34)</p> <p>3. 豊明幼稚園，保育室改修。(5-699)</p> <p>○ 本年度大学部卒業式行われず（学制変更による）。(5-136~138)</p> <p>4. 1 豊明小学校，5日制授業開始。(6-150) (8-289)</p> <p>4. 桜楓会，桜楓学園を開設。(5-142, 739) (11-1625・1626)</p> <p>5. 8 通信教育部開講式。(5-142, 227)</p> <p>7. 1 日本女子大学泉会発会。(5-124, 142, 239~241, 258) (11-1627)</p> <p>7. 25 通信教育部第1回スクーリング開講。9月3日まで。(5-142, 227, 234) (11-1627)</p> <p>11. 11 西生田，グラウンド・林間体操場・テニスコート完成。(5-139) (7-41) (33)</p> <p>11. 27 高等学校運動場開き。(5-142)</p>	<p>2. 財団法人大学通信教育協会発足。</p> <p>3. ドッジラインの明示。</p> <p>4. 大学設置審議会，大学通信教育基準を採択。</p> <p>5. はじめての子どもの日。</p> <p>5. 学校教育法を一部改め短期大学成立。</p> <p>5. 教育職員免許法等公布。</p> <p>6. 社会教育法公布。</p> <p>7. 日本育英会奨学金制度，通信教育生にも適用。</p> <p>10. 中華人民共和国成立。</p> <p>12. 私立学校法公布。</p> <p>○ 旧制女子専門学校の大学昇格漸次認可。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1950 (昭和25)	11. 28 第2代校長 麻生正蔵, 永眠。12月4日校葬。(5-142, 241~243) (11-1628)	
	12. 8 吉田登志, 高等学校主事就任。(5-142, 617)	
	12. 15 豊明小学校, 保護者の寄付による特別教室校舎贈呈式。(5-142, 258, 672) (11-1628・1631)	
	1. 月田カン家政学部長, 通信教育部長に就任(兼任)。(5-142, 752)	1. 満年齢実施。
	3. 6 上代タノ英文学科長, 学監に就任(兼任)。(5-146, 232, 233) (11-1629)	3. 文部省, 6大学(法政・慶應義塾・中央・日本女子・日本・玉川)の通信教育を学校教育法に基づく正規の大学教育の課程として認可。
	3. 14 日本女子大学通信教育, 学校教育法に基づく大学通信教育として認可される。(5-223~225, 227)	4. 短期大学発足。私立大学の大学院設置。
	3. 20 全学園合同卒業式(合同卒業式はこの年をもって終わる)。(5-247) (11-1629)	6. 朝鮮戦争始まる。
	4. 1 文学部に教育学科増設。(5-142, 146)	7. レッドパージ始まる。
	4. 30 日本女子大学学園建設会成立(学債発行)。(5-257~265) (11-1629~1631)	8. 警察予備隊設置。
	6. 10 通信教育部学生表彰制度設定。(5-228)	9. 第2次米国教育使節団, 報告書を提出。
	7. 7 大学本館(泉山館)建設地鎮祭。(5-124, 146, 261) (11-1631)	10. 戦後初の国勢調査。
	7. 24 教職員の免許法改定に基づいて「日本女子大学教職員認定講習会」開催。9月2日まで。(5-233, 234) (11-1630・1631)	10. 公職追放解除始まる。 ○ 特需景気始まる(1953年まで)。
	10. 13 井上前校長公職追放解除。(5-114, 278, 748) (11-1631)	
	10. 21 全学園総合運動会を西生田運動場で挙行。(5-146, 673) (11-1631)	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1951 (昭和26)	<p>3. 13 財団法人日本女子大学校を学校法人日本女子大学に組織変更。大橋学長，理事長に就任。(5-146, 147, 250~256)</p> <p>3. 20 新制大学第1回卒業式(家政学部210名・文学部97名)，日本女子大学校第48回卒業式(旧制最後，家政科168名・文科64名)。(5-143~146, 277)(11-1633)</p> <p>4. 1 日本女子大学校廃止認可申請書を文部大臣に提出。(20)</p> <p>4. 1 豊明幼稚園，2か年および3か年保育制となる。(5-699)</p> <p>4. 21 英文学科シェイクスピア劇10年間の空白を経て復活。「ヴェニス商人」を本学講堂で上演(以後1969年まで上演)。22日まで。(5-150)(⑩-1)(33)</p> <p>5. 10 大学本館(泉山館)落成式。(5-123, 147, 149, 258~261, 275)(⑩-1)</p> <p>5. 23 井上 秀，桜楓会理事長に就任。(5-278, 740, 748)(⑩-1・2)</p> <p>5. 25 「家庭週報」，「桜楓新報」と改題。月刊となる。(5-244, 245, 351, 352, 740)(⑩-1)</p> <p>6. 11 日本女子大学国語国文学会発足。(5-149, 280)(⑩-2)</p> <p>7. 軽井沢夏季寮再開。(⑩-3)</p> <p>10. 21 創立50周年記念に“女子教育の先覚者「成瀬仁蔵」”(小林勝作)をNHKラジオ番組「光を掲げた人々」で放送。(5-273)(⑩-5・6)</p> <p>10. 泉山館使用開始。(⑩-5・6)</p>	<p>5. 児童憲章制定。</p> <p>6. 国際労働機構(ILO)・ユネスコに加盟。</p> <p>7. 日本私立大学連盟設立。</p> <p>9. サンフランシスコ平和条約調印。</p> <p>9. 日米安全保障条約調印。</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1952 (昭和27)	10.	「日本女子大学紀要」(家政学部および文学部) 創刊。(5-280~284, 472~480)	
	11. 1	創立50周年記念行事行われる。6日まで。記念出版『成瀬先生のおしえ』(大橋 広・仁科 節編著)。『日本女子大学とその附属校』(写真集)を刊行。(5-149, 150, 265~274)(㊦-2・3・5~7)	
	12.	小布施新太郎より土地3,600余坪, 建物270余坪を購入(現豊明小学校・桜楓館敷地)。(5-147)(㊦-12・16)	
	4.	通信教育部通年スクーリング開始。(5-153, 229)	3. 私立学校振興会法公布。
	4.	高等学校目白校, 一旦閉鎖。(5-617)(㊦-12)(33)	5. メーカー事件起こる。
	6. 16	日本女子大学農家生活研究所設立。(5-153, 286~293, 571~575)(㊦-14・17)	5. 日本子どもを守る会結成。
	7.	目白から学園までスクールバス開通。(5-277)(㊦-15)	6. 中央教育審議会設置。
	8.	通信教育部学生に, 軽井沢三泉寮における第1回総合面接実施(当該年卒業見込生参加)。(33)	7. 破壊活動防止法公布。
	9.	西生田校地に校門を設置し, 道路を舗装。(7-41)(㊦-18)	○ 家族制度復活の動き起こる。
	11. 8	高等学校第1回もみじ祭。9日まで。(5-153)(㊦-18)	
	12.	日本女子大学国語国文学会「会誌」創刊(後「国文目白」と改題)。(5-480)(34)	
	1953 (昭和28)	1. 16	泉会寄付による, いづみ会館(学生食堂)

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>竣工，贈呈式。(5-123, 151)(㊦-17・18・20)</p> <p>3. 20 新制第3回卒業式において，通信教育部第1回生(63名)卒業。(5-229)(㊦-22)</p> <p>4. 高等学校，目白校を再設置。(5-617)(㊦-23)(33)</p> <p>5. 11 いづみ会館食堂，学園直営として開始。(5-157)</p> <p>5. 15 軽井沢三泉寮改修竣工式挙行。(5-151, 157)</p> <p>5. 29 ルーズヴェルト夫人来校。(5-157)(㊦-24)</p> <p>6. 4 英文学科第1回ミス・フィリップス賞授与。(5-157, 488)</p> <p>10. 中学校校舎建築用地購入。(5-154)(㊦-25)</p> <p>10. 日本女子大学育英奨学金設定。(33)</p> <p>11. 1 第1回目白祭開催。3日まで。(5-157, 230)(㊦-25・28・29)</p> <p>11. 家政理学科，丹下賞基金のために，辻キヨ著『先覚者丹下先生』を出版。(5-301)(㊦-29)(34)</p> <p>12. 5 大学体育館，中学校校舎，豊明小学校講堂地鎮祭。(5-154, 157)(㊦-26・30)</p>	<p>4. 日本婦人団体連合会結成。</p> <p>6. 世界婦人大会。</p> <p>7. 朝鮮休戦協定調印。</p> <p>12. 全日本女子学生大会。</p>
1954 (昭和29)	<p>1. 本学教職員，私立学校共済組合加入。(5-157)</p> <p>3. 13 高等学校，体育館竣工式。(5-154)(㊦-33)</p> <p>3. 社会福祉学科機関誌「社会福祉」創刊。(5-471, 480)(㊦-30~32)</p> <p>4. 20 豊明小学校講堂竣工。(5-673)(㊦-34)</p> <p>4. 26 図書館夜間開館始まる(月，水，金，午後9時まで)。(㊦-34)</p>	<p>3. 第五福竜丸ビキニ水爆被災事件起こる。水爆禁止運動始まる。</p> <p>3. MSA協定調印。</p> <p>6. 教育2法公布。</p> <p>6. 教育職員免許法改正公布。</p> <p>6. 防衛庁設置法・自衛隊法</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1955 (昭和30)	5. 6	社会福祉学科, 研究会活動開始。(5-160) (33)	各公布。
	6. 6	史学科創立10周年の会。(5-160)(㊦-36)	11. 家族制度復活反対連絡協 議会結成。
	7. 1	日本女子大学英語英文学会発足。(5-160)	
	7. 5	豊明幼稚園, 遊戯室として旧高等女学校体 操場を移築。竣工。(5-158)	
	7. 9	中学校校舎竣工。(5-158, 638)(㊦-36)	
	7. 12	大橋学長, 井上桜楓会理事長, スイス・コ ーのM.R.A.大会に出席, のち欧米視察。 11月21日まで。(5-160, 302~305, 741, 748, 749)(㊦-36・37・41)	
	3. 24	通信教育部の教員養成課程認定される(児 童学科=中学1級・高校2級〈家庭・保 健〉・幼1級, 食物学科・生活芸術科=中 学1級・高校2級〈家庭・保健〉・幼2級)。 (5-231)(33)	5. ワルシャワ条約調印。 5. 沖縄在住学生に対する第 1回6大学連合委託試験 実施。 5. 各地で基地反対闘争。 6. 第1回母親大会。 8. 第1回原水爆禁止世界大会。 ○ 下期より神武景気始まる (1957年上期まで)。家庭 電化の時代に入る。
	3. 31	第1回学債償還抽籤。(5-161)(㊦-45)	
	11. 3	桜楓会創立50周年記念式。記念行事5日ま で。(5-305~312)(㊦-47・48・51~53)	
	11. 5	大学体育館竣工式。(5-161, 166)(㊦-53) ○ 日本女子大学史学研究会発足。(33)	
	1956 (昭和31)	1.	筒井記念奨学金設定(高等学校生徒対象)。 (33)
3. 31		大橋 広, 学長・理事長各附属校園長退任。 (5-162, 312~317)(㊦-57)	
4. 1		上代タノ, 第6代日本女子大学学長・理事 長, 各附属校園長に就任。(5-162, 313, 321, 751)(㊦-57)	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1957 (昭和32)	4. 1 学校法人日本女子大学寄付行為一部変更。 学園組織規程施行。(5-312, 333~335)(㊦-57)	同宣言調印。 10. 文部省, 教科書調査官を 設置。
	4. 20 日本女子大学英語英文学会, 英字新聞, <i>The Mejiro Tatler</i> 発刊。(5-346)(㊦-57)	12. 日本, 国連に加盟。 ○ この年より婦人学級各地 に開設。
	4. 学園総合雑誌「泉」創刊(「いづみ」を改 題, 1959年3月まで)。通信教育部, 補助 教材として配付。(5-123, 231, 346, 581) (㊦-46・56)	○ 各種婦人団体, 物価値上 げ反対運動。
	5. 31 日本女子大学合唱団第1回演奏会開催。 (5-365)(㊦-57・58)	
	6. 29 上代学長, 欧米視察。10月20日まで。(5- 330)(㊦-59・63)	
	7. 5 中学校, 下浦海岸寮竣工。(5-359, 360, 638)(㊦-60・71)	
	9. 泉山館4階部分増築完成。(5-360)(㊦-56・62)	
	12. 15 豊明小学校, 豊明祭, 新校舎建設後援バザ ー開催(P T A主催, 1960年まで実施)。 16日まで。(6-197)	
	3. 1 ロックフェラー夫人来校。(5-354)(㊦-67)	1. 南極に昭和基地設営。
	4. 5 児童研究所3階部分増築完成。(5-360) (㊦-65)	5. 国連婦人の地位委員会委 員国に日本初当選(委員 谷野せつ)。
	4. 30 新寮舎竣工(新泉寮・精華寮・紫峰寮)。 (5-369)(㊦-64・70)	6. 日米共同声明, 「日米新 時代」を強調。
	4. 豊明小学校, 5, 6年生のみ6日制授業と なる。(6-201)	10. ソ連, 人工衛星スプート ニク1号打上げに成功。
	5. 『昭和31年度学事報告』発行, この年度よ り独立した冊子となる。(5-327, 328)	12. 勤評反対闘争激化。
	5. 丹下記念奨学金設定。(5-488)(㊦-79)(33)	○ 下期より「なべ底不況」

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1958 (昭和33)	6. 22	成瀬先生生誕100年祭，記念式・祝賀会を開催。記念諸行事，翌年1月まで続く。(5-366, 367, 373, 431~442, 449, 582) (㊦-71) 成瀬先生記念奨学金設定。(5-366, 367, 437, 487, 582) (㊦-70)	<p>始まる(翌年下期まで)。 女子大生の就職難，女性 締出しの傾向。</p> <p>4. 第1回婦選会議。 7. 総評大会，初の婦人常任 幹事をおく。 8. 総評，婦人対策部設置。 10. 警職法改定反対で人権を 守る婦人協議会結成。以 後，婦人・学生らの反対 運動広がる。</p> <p>○ 文部省，道德教育政策を 推進。 ○ 勤務評定反対運動広ま る。</p>
	8.	通信教育制度創設10周年・成瀬先生生誕100年記念スクーリングアルバム発行。(34)	
	10. 1	桜楓会，成瀬仁蔵生誕100年記念式挙(於 山口市吉敷の生誕地)。(5-742) (㊦-75)	
	10. 7	学園総合計画特別委員会設置。(5-337, 370) (15-32-9, 11)	
	10. 17	本学，ウェルズ・カレッジと姉妹校になる。 (5-354, 367) (㊦-77) (15-32-37)	
	10. 22	インディラ・ガンジー夫人来校。(5-354) (㊦-75)	
	12. 10	月田カン教授，学監に就任。(5-331, 752) (㊦-81)	
	3. 20	本年度より卒業式当日に卒業論文展示会開 催。(㊦-80)	
	4. 1	家政学部社会福祉学科，文学部へ所属変 更。(5-342, 367)	
	4. 1	豊明小学校，4年生以上，6日制授業とな る。(6-207)	
	4. 1	学生相談室開室。(5-496) (㊦-80)	
	4. 1	児童研究所改組，新機構で発足。(5-344, 374, 567)	
	4. 1	学部長・学科長，教授会で選挙制となる。 (5-342, 343)	
	4. 1	日本女子大学定年制実施。学監，主事およ	

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1959 (昭和34)		び大学附属機関の主事に関する規程施行。 (5-338~340) (㊦-78)	
	4. 28	西生田に高校職員住宅竣工。(5-366, 368, 377) (㊦-82)	
	4.	日本女子大学英語英文学会「 <i>SYMPOSIUM</i> 」創刊。(34)	
	6. 8	中学校開校10周年記念音楽会(於 日本青年館)。(5-638) (㊦-83)	
	6. 10	高等学校開校10周年記念式, 祝賀運動会。 (㊦-83) (15-33-72)	
	6. 23	成瀬先生生誕記念式。井上元校長肖像画完成。(5-438, 439) (㊦-82・83) 記念出版唐沢富太郎著『日本の女子学生』。 (5-438, 439) (㊦-81・83・84)	
	7.	豊明小学校, 本年度より成績通知表廃止(父母面接にかえる)。(5-673)	
	9. 9	図書閲覧室改装, 一部開架となる。(5-376, 377, 379) (㊦-85)	
	10. 1	学債最終償還。(5-379) (㊦-86)	
	10. 1	日本女子大学学園P T A 連合会結成。(5-239, 347~350) (㊦-85) (15-33-40)	
	11. 9	桜楓館竣工披露式。(5-376, 379, 742) (㊦-87・88) 桜楓学園開講10周年展示会。10日まで。 (5-742) (㊦-86)	
	11. 16	高等学校創立10周年祝賀文芸会(目白校)。 (5-379) (㊦-88)	
	2. 14	通信教育部創設10周年感謝会開催。創設10周年記念写真集を発行。「女子大通信」創設	1. メートル法実施(尺貫法廃止)。

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1960 (昭和35)	10年特集号発行。(5-379, 583) (㊟-88・91) (34)	3. 日米安保条約改定阻止国民会議結成。
	4. 1 大学と学生自治会の連絡協議会設置。(5-494)	4. 皇太子成婚。
	4. 1 学生指導部設置。(5-497, 498)	4. 社会教育法一部改正(社会教育主事設置), 多くの婦人団体反対表明。
	4. 1 本年度より木曜講座(課外講義)を開講。(5-440~442, 528) (㊟-94)	9. 伊勢湾台風。
	6. 23 成瀬先生生誕記念式。記念出版西原慶一著『ものがたり少年成瀬仁蔵』。(5-439) (㊟-94・95)	11. 国連, 児童の権利制限採択。
	9. 17 本学, 国際大学協会に加盟。(5-355, 381) (㊟-98) (18-1)	11. 安保改定阻止デモ隊約2万人国会構内に入る。
	11. 15 成瀬会館(旧小布施邸の一部)移築, 学生館として開館(1974年に取りこわし)。(5-353, 384) (㊟-95・100・101) (15-49-iii)	12. 軍縮のための世界婦人集会。
	11. 23 日本女子大学合唱団, 札幌における全国合唱コンクールで初の1位入賞。(5-499) (㊟-100)	○ 耐久消費財の大量普及始まる。
	11. 29 第1回寮祭「いづみ祭」開催。(㊟-100) (15-34-18)	○ この年より「岩戸景気」が始まる(1961年下期まで)。
	○ 成瀬仁蔵墓所を直接学園の管理とする手続き完了。(5-380) (15-34-2)	
	2. 1 ロックフェラー財団より大学院設置援助として48,000ドルを受贈。(5-356, 381, 443) (㊟-103・104) (18-1)	1. 平塚らいてうら, 各界25婦人, 完全軍縮支持・安保条約廃棄を訴える声明発表。
	3. 29 高等学校目白校閉鎖。(5-375, 380, 382) (33)	1. 日米新安全保障条約調印。
3. 31 豊明小学校新校舎竣工。(5-383, 674) (㊟-103・104) (18-1)	4. 文部省の婦人教育予算14	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>4. 1 柴崎武夫, 高等学校主事に就任。(5-617) (㊦-104) (18-1)</p> <p>4. 1 高等学校, 本年度より西生田校のみとなる。(5-617) (㊦-104)</p> <p>5. 11 高等学校理科特別教室竣工。落成式举行。(5-383) (㊦-102・106) (18-1)</p> <p>6. 19 豊明小学校新校舎落成式。(5-383, 394, 674) (㊦-103・104・106・107) (15-35-76) (18-1)</p> <p>6. 23 成瀬先生生誕記念日に創立60周年記念事業計画発表, 同記念事業後援会発会。(5-442~449, 507) (㊦-106・107) (18-1・2)</p> <p>6. 23 「日本女子大学学園ニュース」創刊。(5-350) (㊦-107) (18-1)</p> <p>6. 創立60周年記念事業委員会設置。(5-444, 445) (㊦-106・107) (18-1・2)</p> <p>7. 1 社会福祉学科, 足立区興野保育園内に興野町セツルメント設置。(5-394) (㊦-113) (18-3)</p> <p>7. 20 豊明ふたば会(小学校同窓会)再開。(5-674) (6-249~254)</p>	<p>倍強に増大。</p> <p>4. 沖縄県祖国復帰協議会結成。</p> <p>4. 主婦労働の価値論争起こる。</p> <p>5. 衆議院, 新安保条約新協定を自民党強行採決。連日国会周辺にデモ, 多くの婦人・学生・生徒参加。</p> <p>6. 新安保条約批准書交換, 発効。</p> <p>8. 第1回家庭科教育研究者集会開催。</p> <p>9. カラーテレビ本放送開始。</p> <p>10. 高等学校学習指導要領, 女子に「家庭一般」2~4単位履修を望む。</p> <p>12. 政府, 国民所得倍増計画決定。</p> <p>○ 保育所運動活発化。</p>
1961 (昭和36)	<p>1. 10 講堂補強修理工事完了, 「成瀬記念講堂」と命名される(60周年記念事業)。(5-388, 391, 510) (㊦-111・113・114) (18-3)</p> <p>2. 日本女子大学史学研究会「史艸」創刊。(5-471, 480, 481) (㊦-116) (18-4・12)</p> <p>3. 31 大学院家政学研究科児童学専攻, 食物・栄養学専攻設置認可。(5-388, 389, 450~456, 508) (㊦-116) (15-35-2, 39) (18-5)</p> <p>3. 31 西原慶一, 豊明小学校主事を退任。(5-</p>	<p>4. ソ連宇宙船, 地球一周有人飛行に成功。</p> <p>5. 韓国に軍事クーデター起こる。</p> <p>5. 文部省社会教育局に婦人教育課設置。</p> <p>6. 農業基本法公布。</p> <p>6. 平和アピール7人委員会結成。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>674) (㊦-116)</p> <p>4. 1 梅崎光生, 豊明小学校主事に就任。(5-674) (㊦-116) (18-5)</p> <p>4. 1 豊明小学校, 3年生以上, 6日制授業となる。(6-257)</p> <p>4. 10 泉山館増築竣工 (60周年記念事業)。(5-398, 510) (㊦-111・115) (18-5)</p> <p>5. 10 泉食堂増築竣工。(5-353) (㊦-118)</p> <p>5. 15 大学院家政学研究科第1回入学式。(5-402, 454) (㊦-118) (18-5)</p> <p>5. 19 豊明小学校後援会設立 (1981年まで)。(6-257~261)</p> <p>6. 23 創立60周年記念式開催。記念出版・写真集『日本女子大学』, 『今後の女子教育』(成瀬先生研究会編集)刊行。(5-395, 396, 456~463, 508, 509, 743) (㊦-118・119) (18-5・6)</p> <p>6. 24 祝賀音楽会開催(全学園合同, 於 文京公会堂)。(5-402, 509, 674, 700) (㊦-119) (18-5)</p> <p>9. 30 潜心寮竣工 (60周年記念事業)。(5-357, 398, 510) (㊦-124)</p> <p>12. 「目白文学」創刊 (第2次。創刊号のみで終わる)。(5-472, 480) (㊦-115・118・126)</p>	<p>10. 文部省, 中学生全国一斉学力テストを実施。日教組反対行動。</p> <p>11. 第1回日米貿易経済合同委員会。</p>
1962 (昭和37)	<p>1. 21 豊明小学校, 父の会開催 (以後, 年1回開催)。(5-675) (㊦-126)</p> <p>3. 日本女子大学国語国文学会, 「国文目白」創刊 (「会誌」を改題)。(5-402, 471, 480) (18-12)</p>	<p>2. 東京, 世界初の1千万人都市となる。</p> <p>3. 女子学生亡国論起こる。</p> <p>4. 学習指導要領改定 (男女別教育を促進)。</p>

年	学 園 事 項	参 考 事 項
1963 (昭和38)	3. 「日本女子大学紀要・創立60周年記念号」刊行。(5-462)(㊟-133)	4. 高校全員入学問題全国協議会結成。
	4. 1 家政学部生活芸術科, 本年度より住居学科, 被服学科として独立開設(60周年記念事業)。(5-395, 411, 508)(㊟-125)(18-7・9)	6. 大学の自治を守る会結成。 7. 小・中学校, 全国一斉学力テスト実施。
	4. 1 学校法人日本女子大学寄付行為一部変更(評議員増員)。(15-36-7, 8)	10. キューバ危機起こる。 10. 新日本婦人の会結成。
	5. 29 上代学長, 渡米。7月13日まで。(5-356)(㊟-130・132)(18-9・10)	12. 東京にスモッグ続き問題化。
	5. 教職員厚生基金制度発足。(60周年記念事業)。(5-341, 404)	○ 主婦パートタイム就労増えはじめる。
	6. 3 上代学長, スミスカレッジより名誉法学博士の学位を受ける。(5-357, 411, 751)(㊟-131)(18-9・10)	
	6. 日本女子大学児童文学研究会「目白児童文学」創刊。(5-411)(18-12)(34)	
	9. 14 中学校体育館竣工。10月13日落成式。(5-408, 411)(㊟-125・128・135)(18-10・11)	
	9. 18 新図書館建設準備委員会発足。(5-403, 466)(㊟-139)(18-12)	
	10. 16 専任教職員に給食開始。(5-353, 411)(18-11)	
	11. 30 高等学校生徒食堂竣工。12月3日開館式。(5-406, 408, 411)(㊟-131・137)(18-11)	
	11. 史学科『大類伸博士喜寿記念史学論文集』刊行。(5-411, 472, 481)(㊟-136)(18-11)	
	2. 12 創立60周年記念日本女子大学大学院井上秀記念奨学金設定。(5-404, 487, 509)(15-37-76)(18-12)	1. 経済審議会, 婦人の再就職, パートタイム制度活用の方針を打ち出す。

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>3. 20 第1回大学院学位記授与式（児童学専攻1名，食物・栄養学専攻3名）。(5-405)(㊟-140)(18-12)</p> <p>3. 31 高橋サダ，豊明幼稚園主事を退任。(5-700)</p> <p>4. 1 大島恒子，豊明幼稚園主事に就任。(5-700)(㊟-141)(18-14)</p> <p>4. 1 広報室を設置(1968年3月まで)。(5-351)</p> <p>4. 22 新図書館定礎式挙行。(5-412, 418, 467)(㊟-141)(18-13)</p> <p>5. 1 日本女子大学60年史編纂委員会発足(1968年6月『日本女子大学学園史 二』刊行)。(5-413, 418)(15-38-38)(18-14)</p> <p>6. 1 日本女子大学学園消費組合発足(1969年12月解消)。(15-44-13, 146)(18-14)</p> <p>6. 22 新図書館起工式。(5-412, 418, 465)(㊟-143)(18-14)</p> <p>6. 23 成瀬先生生誕記念並びに大学新図書館建設協賛音楽会を開催。(5-418, 675)(㊟-143)(18-14)</p> <p>7. 19 第4代校長 井上 秀，永眠。9月21日大学葬。(5-413, 414, 418, 533~535, 744, 748)(㊟-144~146)(18-15)</p> <p>8. 31 三井家から軽井沢三泉寮の建物7棟寄贈を受ける。三泉寮内敷地購入。約4,800坪。(5-414)</p> <p>10. 26 中学校第1回10月祭。27日まで。(㊟-147)(18-16)(33)</p>	<p>4. 高等学校社会科に倫理社会を新設。</p> <p>6. 初のサリドマイド民事訴訟起こる。</p> <p>7. 老人福祉法公布。</p> <p>12. 教科書無償措置法公布。</p>
1964 (昭和39)	3. 31 河村サダ，中学校主事を退任。(5-639)	2. 保育所要求全国婦人大会

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>(㊦-153)</p> <p>3. 豊明幼稚園, 小学校旧体操場を保育室として改造。(5-700)</p> <p>3. 日本女子大学教育学会「人間研究」創刊。(5-418, 471, 480, 481)</p> <p>4. 1 家政学部に家政経済学科増設。同時に, 日本女子大学家政経済学会発足。(5-413, 428, 727)(18-18)</p> <p>4. 1 本年度より家政学部家政理学科一部に物理, 数学, 化学の3系列を設置。(33)</p> <p>4. 1 青木生子, 中学校主事に就任。(5-639)(㊦-153)(18-18)</p> <p>4. 1 女子教育研究所設立(60周年記念事業)。(5-344, 412, 428, 575~581, 726)(㊦-153)</p> <p>4. 10 足立区興野町セツルメントを日本女子大学家庭福祉センターに機構変更, 社会福祉学科実習機関とする。(5-428)</p> <p>6. 23 新図書館竣工(60周年記念事業), 開館式挙行。(5-357, 419, 422, 464, 501~507)(㊦-155)(18-19)</p> <p>7. 16 豊明幼稚園年長組, 西生田夏季保育開始17日まで。(5-700)(18-20)</p> <p>10. 29 日本女子大学合唱団, 桜楓合唱団第1回合同演奏会。(㊦-159・160)(18-21)</p> <p>10. 「図書館だより」発刊。(18-21)(34)</p> <p>11. 14 日本女子大学史学研究会, 史学科創設20周年記念大会。(15-39-63)(㊦-160)(18-20)</p>	<p>開催。</p> <p>4. 日本, 国際通貨基金(IMF)8条国に移行。</p> <p>4. 日本, 経済協力開発機構(OECD)に加盟。</p> <p>4. 文部省, 全国各地に家庭学級開設。</p> <p>8. トンキン湾事件。</p> <p>8. 米原子力潜水艦の日本寄港反対運動に諸婦人団体参加。</p> <p>10. 東海道新幹線開業。</p> <p>10. 東京オリンピック開催。</p> <p>11. 全日本労働総同盟発足。</p>
1965 (昭和40)	<p>3. 31 香雪館竣工, 高等学校体育館増築竣工。(5-420, 421, 423, 518)(㊦-157・158・166)</p>	<p>1. 中央教育審議会, 「期待される人間像」中間草案</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>(18-20・23)</p> <p>3. 31 上代タノ, 学長・理事長・各附属校園長退任。月田カン, 学監退任。(15-39-4)(㊠-164・165)(18-23)</p> <p>4. 1 有賀喜左衛門, 第7代学長・理事長・各附属校園長に就任。(5-423, 595~607)(㊠-164・165)(15-39-1)(18-23)</p> <p>4. 1 司書・司書教諭となる資格に関する科目設置。(33)</p> <p>4. 1 国文学科奨学金設定(1976年久松潜一記念奨学金に改称)。(5-488)(18-23)(33)</p> <p>4. 1 カウンセリングセンター開設。(15-40-89)</p> <p>4. 日本女子大学家政経済学会「家政経済学論叢」創刊。(34)</p> <p>5. 日本女子大学家政理学科一部奨学金設定。(5-487)(33)</p> <p>6. 23 日本女子大学図書館友の会発足。(5-518)(㊠-167・168)(15-40-3, 73)(18-24)</p> <p>6. 女子教育研究所, 『女子教育研究双書』創刊。(15-40-78)</p> <p>8. 20 佐山記念奨学金設定。(5-488)(18-26)</p>	<p>発表。</p> <p>2. 原水爆禁止国民会議結成。</p> <p>2. 米国, 北ベトナム爆撃(北爆開始)。</p> <p>4. 市民文化団体連合(ベ平連)の初デモ。</p> <p>6. 日韓基本条約調印。</p> <p>6. 家永三郎, 教科書検定の第1次違憲訴訟。</p> <p>8. 母子保健法公布。</p> <p>11. 財団法人大学セミナーハウス新築落成式。</p> <p>12. 物価値上げ反対全国大会開催, デモに約1万人の主婦参加。</p> <p>○ 高校進学率70%をこえる。大学学生数100万人を突破。</p> <p>○ 既婚婦人の就労が大幅に増加。</p>
1966 (昭和41)	<p>1. 29 本学卒業生の父母等, 目白会結成。(㊠-177)(18-27)</p> <p>3. 西生田楓寮(大学寮)竣工。(㊠-177)(15-40-10, 11)(18-27・28)</p> <p>3. 日本女子大学英語英文学会「日本女子大学英米文学研究」創刊。(15-40-62)(㊠-175)(18-27)</p>	<p>4. 平塚らいてうら, ベトナム話し合いの会結成。</p> <p>4. 熊本大学など女子入学制限。</p> <p>5. 中華人民共和国で文化大革命始まる。</p> <p>6. 国民祝日法改正公布。</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1967 (昭和42)	4. 1	本年度より「教養特別講義」開講。(㊦-178)(15-41-3, 93)(18-29)	10. 中央教育審議会, 「後期中等教育の拡充整備について」最終答申。女子の特性強調。
	4. 1	大学院文学研究科日本文学専攻, 英文学専攻修士課程開設。(㊦-176・177)(15-40-1, 43/41-1, 62)(18-28・29)	11. 婦人少年問題審議会, 中高年婦人の労働力有効活用に関する建議書を政府に提出。
	4. 1	一番ヶ瀬康子, 高等学校主事に就任。(7-589)(㊦-177)(18-28)	12. 東京地裁, 結婚退職制は違憲と判決。
	4. 1	大岡蔦枝記念奨学金設定。(5-487)(㊦-176)(18-28・32)(33)	○ 3C(カー・クーラー・カラーテレビ)ブーム起こる。
	6.	泉山館新館竣工。(15-41-1, 12)(18-25・30)	○ 総人口1億人を突破。
	10.	高等学校若葉寮竣工。19日開寮。(15-41-12, 100, 102)(18-30)	
	10.	「日本女子大学図書館友の会会報」創刊。(18-32)(34)	
	10.	上代タノ記念奨学金設定。(㊦-168)(33)	
	11. 5	豊明幼稚園創立60周年記念祝賀の集い。(㊦-184)(15-41-1, 112)(18-31)	
	11. 6	豊明幼稚園同窓会結成。(㊦-184)(15-41-1, 112)(18-31)	
	11.	西生田総合グラウンド・テニスコート竣工。(15-41-1)(18-30・31)	
		○ 桜楓会奨学金設定。(5-488)(㊦-185)	
	1. 1	住居表示変更, 東京都文京区高田豊川町18番地より同区目白台2丁目8番1号となる。(㊦-186)(18-31)(33)	2. 旧紀元節, 建国記念日として復活。
	2.	「日本女子大学教養特別講義 日本をみつめるために」創刊。(㊦-190)(15-41-3)(18-32)	8. 公害対策基本法公布。 8. 東南アジア諸国連合(ASEAN)結成。 8. ILO100号条約(男女

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1968 (昭和43)	3.	高等学校特別教室竣工。(15-42-15)(18-33)	の同一労働・同一賃金に関する条約) 批准。
	4. 1	本年度より家政学部食物学科に食物学専攻、管理栄養士専攻の2専攻を設置。(15-42-1)(18-36)	9. 初の大気汚染の公害訴訟(四日市)。
	4. 1	宮本美沙子, 中学校主事に就任。(㊦-189)(18-33)(33)	11. 国連, 「婦人に対する差別撤廃宣言」採択。
	4.	「日本女子大学カウンセリングセンター報告」創刊。(15-41-99)	○ 女子雇用者1千万人越す。中高年齢者層の増加めだつ。
	5. 22	日本女子大学家庭福祉センター(みどりの家), 足立区立興本小学校校庭に移転, 開所式。(㊦-190)(15-42-75)(18-33)	
	6. 17	高等学校創立20周年記念式典。(㊦-191)(15-42-110)(18-34)	
	6. 23	豊明小学校創立60周年記念式典。記念行事, 24日まで。(㊦-191)(15-42-121)(18-34)	
	6.	『日本女子大学附属豊明小学校沿革史』刊行。(34)	
	10. 10	全学園合同体育祭, 西生田総合グラウンドで開催。(㊦-195)(15-42-5, 127, 128)(18-35)	
	10. 22	第二学生控室竣工(泉会より受贈)。(15-42-3, 15)(18-35)	
	1.	もみの木会(通信教育部同窓会)発足。(㊦-199)(33)	1. ベトナム戦争激化(テト攻勢)。
	4. 1	常務理事制設置。(15-43-15)(18-37)	3. 家庭生活問題審議会「期待される家庭像」答申。家庭保育の意義強調。
	4. 1	計算研究所設立。(15-42-1/43-1, 110)	
	4. 1	学生指導部を学生部に改称(1971年3月廃)	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>止)。(15-43-1, 81)</p> <p>4. 9 通信教育部卒業生宅に教職員のための「めぐみ保育園」発足。(㊦-196・200・201・208)(18-38)</p> <p>4. 30 柴谷クニ奨学金設定。(33)</p> <p>6. 『日本女子大学学園史 二』刊行。(15-43-5, 6, 29, 30)(㊦-204)(18-37)(34)</p> <p>7. スクーリング期間、受講学生のための保育をめぐみ保育園にて行う(1970年まで)。(㊦-208)(33)</p> <p>9. 寮の体制・運営について寮生の不満強まる。(15-43-2)</p> <p>11. 22 桜楓会より成瀬仁蔵生誕地の寄贈を受ける(1980年資産とする)。(㊦-213)(15-43-29/55-36)(18-40)(33)</p> <p>11. 寮生との直接交渉機関として寮問題協議会設置。(15-43-2, 88)</p> <p>12. 18 大橋広奨学金設定。(㊦-211)(15-43-3)(18-40)(33)</p>	<p>4. 小笠原諸島返還協定調印。</p> <p>7. 62か国、核拡散防止条約調印。</p> <p>7. 小学校新指導要領告示。歴史教育に神話を導入。</p> <p>10. 国際反戦デー。</p> <p>10. 明治百年記念式典開催。</p> <p>11. 琉球政府主席に初の公選で革新統一候補屋良朝苗当選。</p> <p>○ 全国115大学で紛争発生、通信教育にも波及。次年度へと続く。</p> <p>○ 国民総生産、米国に次いで2位となる。</p>
1969 (昭和44)	<p>1. 31 香雪館増築(5階部分)竣工。(㊦-212)(15-43-23)(18-40)</p> <p>2. 28 豊明プール竣工。(㊦-212)(15-43-23)(18-40)</p> <p>2. 世田谷区玉川野毛町の土地約800坪を、水田 米助教授より受贈。(15-43-4/44-11, 21, 30)</p> <p>3. 12 成瀬仁蔵生誕地、山口市史跡に指定される。(㊦-209・213)(15-43-5, 29)(18-40)</p> <p>4. 1 学寮、自治寮となる。寮監制度を廃止。</p>	<p>1. 第1回ベトナム和平拡大バリ会談。</p> <p>1. 東大入試中止を決定(東京教育大も入試中止)。</p> <p>4. 中学校学習指導要領を改定。</p> <p>5. 政府、新全国総合開発計画を発表。</p> <p>7. アメリカ有人宇宙船アポロ11号、初の月面着陸に</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>(㊦-215)(15-43-88/44-9, 10)(18-42)</p> <p>4. 4 成瀬先生五十年祭, 山口市吉敷にて挙行 (山口市, 桜楓会共催)。(㊦-209~211・213) (15-43-5, 28, 29/44-12)(18-39・40)</p> <p>4. 26 日本女子大学教職員組合結成。設立大会開 催。(15-44-12, 146)(18-40)</p> <p>6. 17 学生自治会, 大学の運営に関する臨時措置 法案に反対し学生大会開催。翌日より6日 間授業放棄によるストライキ決行。(㊦- 216)(15-44-1, 106, 107)</p> <p>6. 18 臨時拡大全学教授会, 同期間の授業中止を 決議, ならびに大学立法反対決議, 反対署 名決議をおこなう。(㊦-216)(15-44-1, 6)</p> <p>6. 27 全学教授会, 教職員組合有志, 大学立法反 対デモをおこなう。(㊦-216)(15-44-2)</p> <p>6. 日本女子大学寮生奨学金設定。(33)</p> <p>7. 13 社会福祉学科学生よりカリキュラムについ て抗議おこる。以後, 新カリキュラム作 成, 承認をめぐり紛糾。翌年2月まで閉 講。(㊦-216・223)(15-44-2~6)(18-42)</p> <p>12. 9 日本女子大学生活協同組合設立。(15-44- 13, 146)(18-42)</p> <p>12. 「日本女子大学教職員組合新聞」発刊。 (33)</p> <p>○ この年, 本学でも大学問題深刻化。</p>	<p>成功。</p> <p>8. 大学の運営に関する臨時 措置法案, 自民党強行採 決により可決成立。</p> <p>10. 全米にベトナム反戦のデ モ。</p> <p>12. 公害健康被害救済措置法 公布。</p> <p>○ 大学紛争激化(本年度中 の紛争大学159校・高校 102校)。</p> <p>○ 女子の高校進学率, 初め て男子を上回る。小学校 の女性教員5割をこす。</p>
1970 (昭和45)	<p>4. 1 本年度より附属各校園の主事制を副校園長 制に変更。(㊦-225)(15-44-7)(18-42)</p> <p>4. 1 久野義雄, 高等学校副校長に就任。 富井セツ, 中学校副校長に就任。</p>	<p>2. 政府, 核拡散防止条約に 調印。</p> <p>3. 大阪で, 日本万国博覧会 開幕。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1971 (昭和46)	<p>小山玄夫，豊明小学校副校長に就任。 細矢静子，豊明幼稚園副園長に就任。</p>	<p>5. 家内労働法公布。 6. 平塚らいてう，市川房枝ら各界婦人，安保廃棄のアピール発表。</p>
	<p>5. 20 梅花寮竣工。(㊦-227)(15-44-11/45-3, 22)(18-43)</p>	<p>6. 日米安全保障条約自動延長。</p>
	<p>6. 1 保健管理センター設立。(15-45-139)(33)</p>	<p>7. 日本私学振興財団設立。</p>
	<p>9. 学生自治会及びその他による授業料値上げ反対運動盛んになる。(15-45-3, 5, 103)</p>	<p>7. 東京地裁，家永教科書訴訟に違憲判決。</p>
	<p>11. 全学教授会，国庫助成増額に関する決議を採択。決議文を学術会議・全国私立大学教授会・政府・各政党に送付。(15-45-1)</p>	<p>10. 高等学校学習指導要領改定。</p>
	<p>○ 本年度より次年度にかけて，老朽寮舎の取りこわし続く。(15-45-3, 22, 23)</p>	<p>11. 日本で最初のウーマンリブ大会開催。以後，東京を中心にリブグループ続々結成。</p>
	<p>3. 「日本女子大学附属高等学校研究紀要」創刊。(15-45-150)(34)</p>	<p>2. 成田空港公団，第1次強制代執行に着手。</p>
	<p>4. 1 専任教員の定年制に関する規定の一部改正により，非常勤講師にも定年制施行。(15-43-32, 143)</p>	<p>6. 中央教育審議会「第3の教育改革」答申。 7. 環境庁発足。</p>
	<p>4. 創立70周年記念事業委員会設置。(15-46-34, 35)</p>	<p>10. 中華人民共和国，国連加盟。</p>
	<p>5. 28 豊明幼稚園新園舎竣工(70周年記念事業)。(㊦-231・240)(15-46-20, 32, 166)(18-42~45)</p>	<p>11. 自民党沖縄返還協定を強行採決。全国で連日抗議行動続く。</p>
	<p>6. 1 日本女子大学さくらナースリー，豊明幼稚園園舎2階にて開所(70周年記念事業)。夏期スクーリング期間は受講学生利用。(㊦-237・239・240)(15-46-3, 160)(18-43・45)</p>	<p>○ 革新知事・革新市長相ついで誕生。</p>
<p>11. 30 創立70周年記念式挙行。(㊦-245)(15-46-</p>		

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1972 (昭和47)	<p>4, 36) (18-45・52)</p> <p>11. 30 図書館に「上代タノ平和文庫」を設置。 (㊦-245) (15-46-3) (18-45)</p> <p>12. 創立70周年記念音楽会、本月より翌年3月にかけて、各校園別に開催。(㊦-246・248) (15-46-40, 41) (18-45・52)</p> <p>1. 28 70周年記念事業募金許可される。(㊦-247) (15-46-43)</p> <p>2. 「日本女子大学児童研究所紀要」創刊。(15-46-134) (18-46)</p> <p>4. 1 本年度より附属校園長制実施。(㊦-249) (15-47-13, 14) (18-46)</p> <p>6. 3 社会福祉学科、創設50周年記念のつどい開催。(㊦-251) (18-46)</p> <p>11. 1 通信教育部を家政学部の通信教育課程とする。学則上での位置づけを変更。(㊦-258) (15-47-(2), 121) (18-46)</p> <p>○ 本年度、七十年館構想および寮費問題をめぐる紛争続く。(15-47-(2) (3)/48-140)</p>	<p>2. 冬季オリンピック、札幌で開催。</p> <p>2. ニクソン米大統領、中華人民共和国訪問。</p> <p>4. 私立大学通信教育協会設立。</p> <p>5. 米軍、北爆強化。</p> <p>5. 沖縄県発足。</p> <p>5. 政府、優生保護法改正案を閣議決定。</p> <p>6. 総理府、婦人に関する諸問題調査会議発足。</p> <p>7. 勤労婦人福祉法公布。</p> <p>9. 日中共同声明調印。</p> <p>11. 日本私立大学連盟、私立大学財政白書を発表。</p> <p>12. 国連総会、1975年を「国際婦人年」とすることを宣言。</p> <p>○ 日本列島改造論。</p>
1973 (昭和48)	<p>1. 17 学長選考規程施行。学長選考、教授会による選挙制となる。(15-47-11~13)</p> <p>1. 24 七十年館地鎮祭。(15-47-44) (18-46)</p>	<p>1. ベトナム和平協定調印。</p> <p>4. 高等学校教育課程を改定。「家庭一般」4単位</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>1. 30 図書館増築竣工（70周年記念事業）。(㊱-253・258) (15-47-30, 42~44) (18-46・52)</p> <p>2. 16 家政学部被服学科，一級衣料管理士養成大学の認可を受ける（1971年度入学生より実施）。(15-47-(1))</p> <p>2. 20 第5代学長 大橋 広，永眠。3月3日大学葬。(㊱-259・260) (15-47-(4), 47) (18-46)</p> <p>2. 日本女子大学国語国文学会「研究ノート」創刊。(15-47-94)</p> <p>3. 31 有賀喜左衛門，学長・理事長を退任。(㊱-260) (15-47-(5)/48-7) (18-47)</p> <p>3. 「日本女子大学紀要・創立70周年記念号」刊行。(㊱-258) (15-47-42) (18-46)</p> <p>4. 1 道 喜美代，第8代日本女子大学学長・理事長に就任。(㊱-260) (15-48-1) (18-47)</p> <p>4. 1 村山寿子，豊明小学校校長に就任。(15-48-36)</p> <p>5. 15 新・泉山寮竣工。(㊱-263) (15-48-前頁2, 31) (18-47)</p> <p>5. 「日本女子大学計算研究所情報」創刊。(15-48-159)</p> <p>6. 26 学園総合計画委員会設立。(15-48-前頁1, 47~57)</p> <p>6. 教授会，国庫助成に関する関東地区私立大学教授会連合加盟。(15-48-前頁1, 前頁2, 73)</p> <p>12. 14 学費改訂問題について，理事会と学生自治会による話し合いの会実施（16日まで）。48時間におよび，理事会改訂案撤回。(15-48-前頁2, 139)</p>	<p>女子のみ必修。</p> <p>6. 第1回国際フェミニスト会議に樋口恵子ら出席。</p> <p>9. 筑波大学法公布。</p> <p>10. 第4次中東戦争始まる。</p> <p>10. 第1次石油危機起こる。</p> <p>11. 物価暴騰，生活関連物資の買いだめ騒動起こる。</p> <p>12. 国民生活安定緊急措置法公布施行。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1974 (昭和49)	<p>3. 30 七十年館竣工 (70周年記念事業)。(㊦-258・265・273)(15-48-30, 44)(18-50・52)</p> <p>3. 30 豊明小学校, 新校舎 (講堂等) 竣工。(㊦-258・264・273)(15-48-3, 31)(18-50)</p> <p>4. 1 小林六郎, 高等学校校長に就任。(15-49-iv, 35)</p> <p>6. 創立70周年記念出版『成瀬仁蔵著作集第1巻』刊行 (1981年全3巻完結)。(㊦-267・278)(15-48-42/49-ii, 40)(18-50・52・55・75)</p> <p>7. 「目白文学」(第3次) 創刊 (国文学科創作ゼミナール)。(34)</p> <p>9. 26 学園総合計画委員会, 大学関係部会の最終答申を提出。(15-49-43~46)</p> <p>11. 1 成瀬記念講堂, 文京区有形文化財に指定される。(㊦-281)(15-49-v)(18-50)</p> <p>12. 25 大学入学定員を1学年600名から720名に増員。(15-49-i, ii)</p>	<p>1. 家庭科の男女共修をすすめる会発足。</p> <p>2. 教員人材確保法成立。</p> <p>4. 15婦人団体, 靖国法案強行採決に反対声明。</p> <p>5. 日本消費者連盟結成。</p> <p>6. 社会教育審議会答申 (家庭教育振興など)。</p> <p>8. 大学婦人協会による「高等教育をうけた婦人の意識調査」発表。</p> <p>9. 女子の若年定年制を無効とする初の高裁判決。</p> <p>12. 雇用保健法公布。</p> <p>○ 大学通信教育に第1回国庫助成。</p> <p>○ 戦後初のマイナス成長。狂乱物価。</p> <p>○ この年後半, 不況により中小企業倒産増。婦人労働者, 雇用調整される。</p>
1975 (昭和50)	<p>4. 1 大学院文学研究科日本文学専攻に博士課程後期増設および同研究科社会福祉学専攻博士課程開設。(㊦-284・286)(15-49-ii/50-56)(18-51)</p> <p>4. 24 理事長の諮問機関として学園総合計画委員会発足。(15-50-40~44)(18-51)</p> <p>5. 10 桜楓館別館竣工。(㊦-281・282・287)(15-50-26)(18-51)</p>	<p>4. ベトナム戦争終わる。</p> <p>6. 第60回ILO総会。婦人労働者問題に関し宣言。</p> <p>6. 衆参両院本会議, 「国際婦人年にあたり, 婦人の社会的地位の向上を図る決議」を採択。</p> <p>6. 国際婦人年世界会議。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1976 (昭和51)	<p>2. 12 大学の入学定員を1学年1,000名に増員。 (15-50-i, ii, vi)(18-54・55)</p> <p>4. 1 西生田楓寮(大学寮), 高等学校寮に所属変更。(15-51-28)(18-55)</p> <p>4. 1 豊明小学校, 本年度より全学年授業5日制を実施。(15-51-174)(18-55)</p> <p>5. 21 学園総合計画委員会, 中学校を将来西生田校地に移設する方針を出し, 理事会にて決定。(㊦-312, 313合併号)(15-51-iii)(18-55~57)</p> <p>7. 『日本女子大学英文学科七十年史』刊行。 (㊦-300・302)(15-51-100)</p> <p>7. 10 軽井沢三泉寮にセミナーハウス竣工(泉会より受贈)。(㊦-300)(15-51-iv, 26, 27)(18-55・59)</p>	<p>7. 私立学校振興助成法公布。</p> <p>7. 育児休暇法公布。</p> <p>10. 女子学生の就労問題を考える会結成(事務局日本女子大学学生自治会)。</p> <p>10. 国際婦人年世界大会。</p> <p>11. 国際婦人年日本大会。</p> <p>12. 国連, 以後10年間を「国連婦人の10年」とする。</p> <p>2. ロッキード疑獄事件浮上。</p> <p>3. 国家公務員初級試験「行政事務B」, 女性にも受験資格与えられる。</p> <p>6. 民法および戸籍法改正。離婚女性の「姓」の選択自由に。</p> <p>7. ベトナム社会主義共和国成立。</p> <p>10. 政府, 防衛費をGNPの1%以内に決定。</p> <p>12. 国連, 「国際児童年」を決議。</p> <p>○ 戦後生まれ, 総人口の半数を超える。</p>
1977 (昭和52)	<p>2. 17 中学校, 神奈川県に設置計画承認される。 (㊦-312, 313合併号)(15-51-iv)(18-57~60)</p> <p>2. 20 豊明幼稚園創立70周年記念祝賀の集い。</p>	<p>1. 婦人問題企画推進本部, 「国内行動計画」決定。</p> <p>7. 小・中学校学習指導要領</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1978 (昭和53)	(㊦-307)(15-51-179)(18-58)	改定。
	4. 1 梅崎光生, 高等学校校長に就任。(15-52-III, 37)	8. 原水爆禁止統一世界大会 国際会議, 広島で開催。
	4. 1 古屋房子, 豊明小学校校長に就任。(15-52-III, 37)	10. 国立婦人教育会館を開館 (埼玉県嵐山町)。
	6. 17 中学校・高等学校西生田新校舎地鎮祭。 (㊦-312, 313合併号)(15-52-44)(18-59・60)	11. 政府, 第3次全国総合開 発計画を決定。
	6. スクーリングのため, 一部教室にクーラー 設置。(15-52-34)(18-59・60)	○ 平均寿命男女とも世界一 となる。
	10. 1 中島武雄奨学金, 上村悦子奨学金設定。 (㊦-312, 313合併号)(15-53-49, 50)	
	12. 15 中学校, 神奈川県に設置申請認可。(15-52-44)(18-62)	
	3. 3 西生田若葉寮(高等学校寮), 増築改修竣 工。中学校寮に所属変更。4日落成式。 (15-52-34, 35)(18-63)	1. 総理府, 最初の婦人白書 「婦人の現状と施策」を 発表。
	3. 中学校・高等学校統合校舎建設第1期工事 終了(中学校使用部分竣工)。(15-52-46) (18-63)	5. 新東京国際空港開港。 5. 初の国連軍縮特別総会開 幕。
	4. 1 大学院家政学研究科に住居学専攻・被服学 専攻修士課程, 文学研究科に教育学専攻修 士課程開設。文学研究科英文学専攻に博士 課程後期増設。(㊦-320)(15-52-56/53-I) (18-62~64)	8. 日中平和友好条約調印。 8. 高等学校学習指導要領改 定。
	4. 1 家政学部通信教育課程児童学科に小学校教 員養成課程を設置。(㊦-318)(15-53-I) (18-62・64)	11. 日本婦人団体連合会, 有 事立法反対のアピール発 表。
	4. 1 秋月 涼, 高等学校校長に就任。(15-53-III, 40)	11. 羽仁説子ら, 子どもの人 権を守る連絡会議結成。

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1979 (昭和54)	4. 1 大島恒子, 幼稚園園長に就任。(15-53-III, 40)	
	4. 1 高橋憲子記念奨学金, 河上サワ記念奨学金, 松本武子記念奨学金設定。(15-53-52, 53)	
	4. 1 西生田事務室設置。(15-53-225, 226)(18-63)	
	4. 5 中学校, 目白より西生田に移転終了。28日開校式。(㊦-322)(15-52-199/53-IV, 45, 214)(18-63)	
	4. 中学校旧校舎・同体育館を大学校舎(七号館)・大学第二体育館に所属変更。(15-53-IV, 37)(18-64)	
	9. 24 軽井沢三泉寮改築工事地鎮祭。(㊦-327)(15-53-IV)(18-65・66)	
	11. 25 児童研究所創立50周年記念の集い開催。(15-53-173)(18-66)	
	1. 29 学生, 学費改定白紙撤回を要求し後期期末試験ポイコット(2月10日まで)。翌月試験実施。(15-53-I, 157~161)	1. 米中, 国交回復。 1. 初の国公立大共通1次試験実施。
	2. 28 中学校・高等学校新校舎建設全工事終了。(15-53-VI, 35)(18-67・69)	1. 第2次石油危機。 6. 元号法公布。
	3. 30 家政学部通信教育課程児童学科聴講生課程, 小学校教員養成課程として認可される。(㊦-335)(15-53-118)	7. 法務省, 相続に関する民法改正要綱試案発表(妻の相続分引き上げ等)。
4. 大学院文学研究科英文学専攻, 英文学専攻協議会に加盟(加盟大学との単位互換開始)。(18-69・76)	11. 第1回国際女子マラソン東京で開催。	
4. 1 正田弥生, 中学校校長に就任。(15-54-	12. 国連総会において「女子に対するあらゆる差別撤	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>II, 38)</p> <p>4. 1 日本女子大学FN賞(家政学部食物学科)設定。(15-54-58)</p> <p>5. 18 中学校・高等学校新校舎落成式挙行。(㊦-335)(15-54-II, 43~46)(18-67)</p> <p>5. 26 通信教育課程創設30周年記念報告の集い, 26日 倉敷市, 27日 山口市にて開催。(㊦-330・335・340)(15-54-132)(18-68)</p> <p>6. 29 軽井沢三泉寮本館, 泉会の寄付により改築を完成, 落成式(80周年記念事業)。(㊦-335)(15-54-IV, 33, 34, 46, 47)(18-67~69)</p> <p>6. 大学院文学研究科英文学専攻, <i>Veritas</i>創刊。(18-66)(34)</p> <p>8. 4 通信教育課程創設30周年記念講演会開催(同月18日にも開催)。(㊦-340)(15-54-131, 133)(18-68)</p> <p>11. 日本女子大学図書館『成瀬文庫目録』刊行。(15-54-183)(18-69)</p> <p>12. 1 通信教育課程創設30周年記念の集いを開催(於 椿山荘)。(㊦-340)(15-54-133)(18-69)</p> <p>12. 13 高橋憲子記念研修奨学金設定(教員)。(15-55-54)</p> <p>12. 20 第7代学長 有賀喜左衛門, 永眠。翌年1月27日, 日本女子大学他5団体により本学講堂で告别式。(㊦-342・343)(15-54-47)(18-70)</p> <p>12. 「日本女子大学保健管理センター報告」創刊。(34)</p> <p>12. 「日本女子大学農家生活研究所所報」創刊。</p>	<p>「廃条約」を採択。</p> <p>12. ソ連, アフガニスタン侵入。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1980 (昭和55)	<p>(15-54-189)</p> <p>3. 28 通信教育課程創設30周年記念公開講座開催。(15-54-133)(18-71)</p> <p>3. 中学校,「教育実践記録」発刊。(15-54-223)</p> <p>4. 4 成瀬公園の整備完了,披露式挙行(成瀬家遺品の手水鉢を設置)。(18-70・71)</p> <p>4. 22 創立80周年記念事業実行委員会設置。(15-55-Ⅲ, 48~52)(18-72)</p> <p>10. 1 ヴェリタス賞(柴崎武夫奨学金による)設定。(15-55-55, 65)</p>	<p>1. 高橋展子,初の女性特命全権大使(デンマーク)。</p> <p>4. 「私立大学通信教育協会報」創刊。</p> <p>5. 民法及び家事審判法改正公布(配偶者の相続分50%に)。</p> <p>6. ユネスコ,初の軍縮教育世界会議。</p> <p>7. 国連婦人の10年中間世界会議「女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する条約」に署名。</p> <p>9. イラン・イラク戦争始まる。</p> <p>○ 校内暴力・家庭内暴力急増。</p> <p>○ 子どもをめぐる調査,盛ん。</p>
1981 (昭和56)	<p>1. 10 高等学校クラブ室竣工。(15-55-37)(18-72・73)</p> <p>3. 『日本女子大学社会福祉学科五十年史』刊行。(34)</p> <p>3. 31 道 喜美代,学長・理事長を退任。(㊶-356)(15-55-Ⅲ, 1)(18-73・74)</p> <p>4. 1 青木生子,第9代日本女子大学学長・理事長に就任。(㊶-356)(15-55-Ⅲ, 1/56-1)(18-73・74)</p>	<p>2. 婦人問題企画推進会議,国連婦人の10年後半期に向けての意見書を首相に提出。</p> <p>3. 中国残留日本人孤児,初の正式来日(47人)。</p> <p>6. 中央教育審議会,生涯教育について答申。</p> <p>10. 文部省,大学通信教育設</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1982 (昭和57)	4. 1 細矢静子, 豊明幼稚園園長に就任。(15-56-II, 38)	置基準公布。
	4. 1 創立80周年記念事業募金委員会設置。(㊦-358)(15-55-III, 48)(18-74)	
	5. 11 八十年館地鎮祭。(㊦-358)(15-56-43, 57~59)(18-74・75)	
	5. 16 豊明小学校PTAの組織を改め, 豊明小学校豊明会と改称。(15-56-263)	
	9. 1 富山はつ江記念奨学金設定。(33)	
	11. 16 創立80周年記念式挙行。『図説 日本女子大学の八十年』刊行。(㊦-364)(15-56-III, 43, 49, 50, 51)(18-76)	
	11. 21 創立80周年記念祝賀音楽会, 全学園合同で開催(於 立正佼成会普門館)。(㊦-364)(15-56-43, 50~53)(18-76)	
	3. 「日本女子大学紀要・創立80周年記念号」刊行。(15-56-III, 54, 55)(18-77)	7. 教科書の歴史記述について, 中華人民共和国・大韓民国より批判抗議。以後, アジア各国からも抗議。
	4. 8 第6代学長 上代タノ永眠。5月8日大学葬。(㊦-369・370)(15-57-IV)(18-77)	
	4. 高等学校, 本年度より海外帰国生徒転入者を募集(募集は9月と3月)。(㊦-378)(15-57-243)	10. 神戸大学, 初の平和教育開講。
	6. 30 八十年館竣工(80周年記念事業)。(15-57-46)(18-77)	○ 日本を含め, 世界各国で反核運動広がる。
	10. 2 八十年館落成式。(㊦-375)(15-57-48, 49)(18-78)	
	10. 日本女子大学理科一貫教育振興会奨学金設定(辻キヨの拠金による)。(33)	
	10. 一宮道子記念奨学金設定。(33)	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1983 (昭和58)	<p>○ この年、上代ハウスを、故上代タノ元学長より遺贈。(15-57-37)</p> <p>2. 1 成瀬記念館設立準備室開設。(15-57-Ⅲ, 50, 51)(18-79)</p> <p>4. 1 学芸員となる資格に関する科目設置。(33)</p> <p>4. 1 小林六郎、高等学校校長に就任。(15-58-II, 38)</p> <p>4. 1 中島直子、豊明小学校校長に就任。(15-58-II, 38)</p> <p>7. 豊明小学校、「研究部だより」創刊。(15-58-265)(34)</p> <p>10. 14 成瀬記念館地鎮祭。(㊦-383・384・387)(15-58-44)(18-81)</p> <p>12. 『日本女子大学附属高等学校三十年史』刊行。(34)</p>	<p>4. 放送大学開学。</p> <p>10. 三宅島噴火。</p> <p>○ パソコン・ワープロ普及。</p> <p>○ 校内暴力問題化。</p>
1984 (昭和59)	<p>4. 1 木下優子、高等学校校長に就任。(15-59-II, 39)</p> <p>4. 1 大島恒子、豊明幼稚園園長に就任。(15-59-II, 39)</p> <p>4. 21 桜楓会設立八十周年記念式典・祝賀会挙。『桜楓会八十年史』刊行。(㊦-392~394)(18-83)</p> <p>6. 30 成瀬記念館竣工(80周年記念事業)。正門警備員室竣工。(15-59-42~45)(18-83)</p> <p>10. 12 目白通り沿い塀および門扉改修完成。(15-59-45)</p> <p>10. 18 成瀬記念館落成式挙。開館。(㊦-398~400)(15-59-46)(18-84・85)</p>	<p>5. 15才未満の子ども人口、総人口比22.3%となる。</p> <p>8. 臨時教育審議会設置(翌年6月答申、個性重視など)。</p> <p>○ 婦人の就業者の半数働く主婦となる。</p> <p>○ アフリカの飢餓が深刻化。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1985 (昭和60)	<p>『今後の女子教育』再版,『成瀬仁蔵研究 文献目録』刊行。(15-59-Ⅲ, 45, 46)</p> <p>3. 8 附属校園関係者の提案に基づき「一貫教育 を考える会」発足。(15-59-Ⅲ, 254)</p> <p>3. 10 第8代学長 道 喜美代, 永眠, 3月23日大 学葬。(㊦-404)(15-59-Ⅳ, 49, 50)(18-86)</p> <p>4. 1 恩田久子, 中学校校長に就任。(15-60- Ⅱ, 36)</p> <p>4. 1 西生田キャンパスの住居表示変更, 神奈川 県川崎市多摩区菅5051番地より, 同区西生 田1丁目1番1号となる。(18-86)(33)</p> <p>4. 29 青木学長, 日中大学長会議に出席(於 北 京, 5月3日まで)。(㊦-413)(15-60-Ⅲ) (18-87)</p> <p>6. 15 女子教育研究所設立20周年記念「女子教育 研究セミナー」開催(於 成瀬記念館)。 (㊦-410)(15-60-210)(18-87)</p> <p>11月30日には「公開講演・シンポジウム」 を開催(於 成瀬記念講堂)。(㊦-411)(15 -60-211)(18-88・89)</p> <p>10. 成瀬記念館, 機関誌「成瀬記念館」創刊。 (㊦-412-5)(15-60-244)(18-88)(34)</p> <p>○ 本年度より, 学園総合計画委員会の教育機 関部会を再開。学園の将来計画につき検討 開始。(15-60-Ⅲ)</p>	<p>6. 女性による民間教育審議 会発足。</p> <p>6. 政府, 女子差別撤廃条約 批准。</p> <p>7. 国連婦人の10年, 最終年 世界会議。</p> <p>9. 教育課程審議会再開。</p> <p>○ 全国小・中学校, 「いじ め」社会問題となる。</p> <p>○ ファミコンブーム。</p> <p>○ 日米経済摩擦深刻化。</p> <p>○ 女子雇用労働者が1,500 万人を突破。家事専業者 を初めて上回る。</p>
1986 (昭和61)	<p>1. 20 茅野蕭々・雅子記念奨学金設定。(33)</p> <p>3. 15 高等学校, 校舎増築完成。(15-60-33)</p> <p>3. 28 青木学長, 交換学生制度促進のため米国ウ</p>	<p>4. 男女雇用機会均等法施 行。</p> <p>4. 臨教審, 第2次答申(生</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1987 (昭和62)		エルズリー・カレッジを訪問。スミス・カレッジ、マウント・ホリヨーク・カレッジ、カナダのトロント大学でも教育事情視察、4月6日まで。(㊦-420)(15-60-Ⅲ)	涯学習など)。 4. ソ連、チェルノブイリ原発大事故発生。 9. 社会党委員長に土井たか子就任。 10. 教育課程審議会(小学校に生活科など)答申。 12. 防衛費、GNPの1%枠突破。
	4. 1	友沢桂子、豊明小学校校長に就任。(15-61-II, 36)	
	4. 1	細矢静子、豊明幼稚園園長に就任。(15-61-II, 36)	
	6. 20	豊明小学校、創立80周年記念式挙行。(㊦-419)(15-61-258)(18-91)	
	6. 23	豊明幼稚園、創立80周年記念の集い開催。(㊦-419)(15-61-262)(18-91)	
	4.	大学院文学研究科教育学専攻に博士課程後期増設。(15-61-I)(18-94)	1. 日米教育研究報告。 3. エイズ患者、全世界で10万人を推計。 4. 国鉄分割・民営化。 10. ニューヨークで株価大暴落。 11. 全日本民間労働組合連合会(連合)結成。 12. 米ソ、中距離核兵器(INF)全廃条約調印。 ○ 日米経済摩擦深刻化。
	5. 28	全学教授会、「総合計画検討委員会」の設置を決定。6月11日より、同委員会、西生田校地の活用と絡め、新学部構想の具体化について検討を開始。(15-62-Ⅲ/63-56, 59~63)	
	9. 24	伊庭禮治評議員の厚意により、伊庭理科学研究学術奨励賞設定(教員対象、向こう10年間)。(18-131)(33)	
	11. 30	氏家壽子記念奨学金設定。(18-97)(33)	
	1988 (昭和63)	3.	通信教育課程創設40周年記念ビデオ制作、「Lifelong Education—日本女子大学の通信教育—」。(33)
5. 18		仮称理学部問題検討のため、総合計画検討委員会理学部専門委員会、第1回会合開	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>催。(15-1-53~55)(18-114)</p> <p>5. 外国人留学生のためのチューター制度発 足。(15-63-218)(18-103)</p> <p>6. 『日本女子大学附属豊明小学校八十年史』 刊行。(34)</p> <p>7. 30 新設学部を、人間社会学部の名称で文部省 へ認可を申請(1次申請)。(15-63-Ⅲ/1- 47)(18-100)</p> <p>9. 28 日本女子大学桜楓館新館増築工事地鎮祭。 (㊦-431・444・446)(15-1-43)(18-100)</p> <p>10. 22 カウンセリングセンター創立30周年記念公 開講演会開催。(15-63-258)(18-101)</p> <p>10. 27 人間社会学部設置準備委員会および同準備 室を設置(90周年記念事業)。(15-63- 63~65)</p> <p>10. この頃、高等学校旧校舎等の取り壊し工事 開始。(㊦-445)(15-63-34~37)(33)</p> <p>12. 15 全学教授会、「学寮を考える会」の設置を 決定(1990年6月発足)。(33)</p> <p>○ 推薦入学制度(外部)、食物学科・被服学科 で実施。(18-100)(33)</p>	<p>戦。</p> <p>11. 文部省、「児童・生徒の 問題行動実態調査」</p> <p>○ 円高景気始まる。</p> <p>○ 原発反対運動全国的に広 まる。</p>
<p>1989 (昭和64) (平成元)</p>	<p>1. 27 西生田校地にて、人間社会学部校舎起工式 挙行。(㊦-450)(15-63-Ⅲ)(18-101)</p> <p>4. 20 野毛校地売却。(15-1-33)(18-104)</p> <p>6. 30 人間社会学部新設、文部省へ認可申請(2 次申請)。(15-1-48)(18-103)</p> <p>7. 6 米国 ウェルズリー・カレッジと交換留学の 協定締結。(㊦-468)(15-1-182)(18-104)</p> <p>9. 27 日本女子大学桜楓館新館落成式。(㊦-</p>	<p>1. 平成と改元。</p> <p>4. 消費税実施。批判世論広 がる。</p> <p>5. ベトナム難民船漂着、以 後難民船上陸急増。</p> <p>6. 中華人民共和国、天安門 事件起こる。</p> <p>7. 参議院選挙で社会党進出</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1990 (平成2)	458・459)(15-1-43)(18-104)	し与野党逆転。
	10. 16 日本女子大学図書館情報システム(JWULIS) 始動式。機械貸出開始。(15-1-194)(18-104)	11. ベルリンの壁崩壊。 ○ 東欧諸国, 社会主義政権崩壊相次ぐ。
	10. 17 女子教育研究所, 川崎市教育委員会と共催で「ウィメンズ・ライフロング・カレッジ」開催, 12月8日まで(以後2年間, 継続)。(㊦-466)(15-1-207, 208)(18-104)	○ 政府, 朝鮮民主主義人民共和国・大韓民国に過去を謝罪。 ○ 女子の大学・短大進学率36.8%, 男子を上回る。
	11. 10 全学教授会にて学寮アドバイザー設置の件可決。(15-1-Ⅲ)	
	12. 22 人間社会学部, 設置認可。(㊦-462)(15-1-49)(18-105) ○ 人間社会学部, 推薦入学・社会人入学制度導入。(18-106)(33)	
	1. 17 成瀬記念館, 博物館相当施設として東京都教育委員会より認可。(㊦-463)(15-1-240)(18-105)	3. ソ連, バルト3国で独立運動高揚。 7. 生涯学習振興法施行。
	2. 9 本年度より文学部は国文学科, 英文学科, 史学科のみ入学試験を行う。(18-106)(33)	8. イラク軍, クウェート侵攻。
	2. 10 人間社会学部, 初の入学試験を行う。(18-106)(33)	10. 東西ドイツ統一。 10. 政府, 国連平和協力法案提出, 論議活発。
	2. 16 米国ウェルズリー・カレッジより第1回交換留学生受入。(㊦-468)(15-1-Ⅳ, 182)	11. 安保理, 対イラク武力容認決議。
	3. 9 米国メリーマウント・カレッジと交換留学の協定締結。(㊦-468)(15-1-182)(18-106)	○ この年より脳死問題の論議盛んとなる。
	3. 人間社会学部校舎九十年館竣工(90周年記念事業)。(15-1-33)	○ 女子学生100万人突破。
	3. 成瀬記念講堂および泉山館の一部外装工事。(18-106)(33)	

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
		<p>4. 1 人間社会学部（現代社会学科・社会福祉学科・教育学科・心理学科・文化学科）開学。 (㊦-465)(15-2-Ⅲ, 108)(18-106)</p> <p>4. 1 一般教育課程を解体し，教員は各学部の各学科へ所属替え。各学部教授会を教学の審議決定機関とし，全学的協議機関として大学評議會を設置。必要に応じ連合教授会を置くこととする。(15-1-Ⅰ)</p> <p>4. 1 大学院文学研究科社会福祉学専攻博士課程後期に限り，男子院生を受け入れる（本年度1名）。(15-2-Ⅰ)(18-106)</p> <p>4. 1 学寮，本年度より1・2年生の施設となる。(15-63-Ⅱ)</p> <p>4. 1 楓寮（高等学校寮），大学部との共用となる。(15-2-Ⅱ)</p> <p>4. 1 北川定男，高等学校校長に就任。(15-2-Ⅲ, 48)</p> <p>4. 1 前 典子，豊明幼稚園園長に就任。(15-2-Ⅲ, 49)</p> <p>4. 1 国際交流コーナー設置。(15-2-Ⅳ, 233)</p> <p>4. 1 本年度より日本女子大学図書館情報システム（JWULIS）本稼動開始。(15-2-245)</p> <p>4. 1 西生田に，図書館・カウンセリングセンター・保健管理センター・計算研究所等開設。(33)</p> <p>4. 1 西生田事務室，西生田事務部となる。(18-106)(33)</p> <p>6. 2 人間社会学部開学式挙行。(㊦-467)(15-2-Ⅲ, 53)(18-107)(33)</p> <p>8. ウェルズリー・カレッジへ1名，メリーマ</p>	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1991 (平成3)	<p>12. ウント・カレッジへ2名, 第1回交換留学生派遣。(㊦-468)(15-2-V, 235)(18-106)</p> <p>米国 スミス・カレッジ, マウント・ホリヨーク・カレッジ, オーストラリアのメルボルン大学, 本学の協議大学となる。(15-2-V, 233)(33)</p>	
	<p>1. 14 ウェルズリー・カレッジよりN.O.コーヘンヌ学長来学, 講演会開催, 女子大学23校の関係者等が参加。(㊦-474)(15-2-V, 233)(18-109)(33)</p>	<p>1. 湾岸戦争起こる(2月まで)。</p> <p>2. 大学審議会, 大学設置基準の大幅な改変を答申。</p>
	<p>2. 1 理学部設置準備委員会設置。(90周年記念事業)(15-2-59)(18-114)</p>	<p>3. 国際婦人デーの催し全国各地で開催。</p>
	<p>3. 「日本女子大学紀要 人間社会学部」創刊。(㊦-477)(34)</p>	<p>4. 中央教育審議会, 高等教育に総合学科設置答申。</p>
	<p>4. 1 鈴木一夫, 中学校校長に就任。(15-3-II, 41)</p>	<p>4. 政府, 海上自衛隊をペルシャ湾へ派遣。</p>
	<p>4. 20 創立90周年記念式挙行。『年表 日本女子大学の90年』刊行。(㊦-477・480)(15-3-III, 47, 48, 310)(18-111)(34)</p>	<p>5. 総務庁, 子ども人口を発表。総人口比17.9%は調査史上最低。</p>
	<p>6. 1 さくらナースリー, 開所20周年記念のお祝い会・バザー開催。『さくらナースリー二十年の歩み』刊行。(15-3-307)(18-112)(34)</p>	<p>5. 「育児休業等に関する法律」公布(翌年4月1日施行)。</p>
	<p>6. 28 理学部新設, 文部省へ認可申請。(15-3-54)(18-111・114)</p>	<p>5. 金平輝子, 初の女性副知事となる(東京都)。</p>
	<p>10. 26 第1回日女祭(27日まで。目白祭は25~27日)。(15-3-236, 237)(18-113)</p>	<p>6. 大学設置基準改正(カリキュラム編成の弾力化等)。</p>
	<p>10. 26 住居学科, 創設40周年を記念し, 公開シンポジウム開催。(18-114)</p>	<p>7. 米ソ, 戦略兵器削減条約調印。</p>
	<p>11. 30 児童研究所, 第1回シンポジウム開催。</p>	<p>9. 大韓民国・朝鮮民主主義</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1992 (平成4)	(15-3-255)	人民共和国, 国連加盟。
	12. 3 第1回西生田講堂建設専門委員会開催。 (15-3-9)	10. 「学校基本調査速報」によれば, 1991年春の大卒
	12. 20 理学部設置認可。(㊦-486)(15-3-II, 47) (18-114)	女子就職率は81.8%で初めて男子を抜く。
	12. 29 青木学長, インドのS. N. D. T. 女子大学 創立75周年記念国際円卓会議に出席のため 渡印。1月9日まで。(㊦-487)(15-3-III, 195, 235)(18-114)	12. ソ連, 消滅。独立国家共 同体(CIS)創設。 ○ 金融不祥事相次ぐ。 ○ バブル経済の崩壊により 女子学生の就職不振。
	2. 8 理学部, 初の入学試験を行う。(㊦-486)	1. 脳死臨調, 「脳死は人の
	2. 14 川崎市多摩区菅馬場3-36-3より分筆, 桜楓会に贈与し, 桜楓ハウス建設竣工。本 学教職員の住居とする。(㊦-480・482・487・ 500)(15-3-35)(18-113・115)	死」とする最終答申。 3. 国連カンボジア暫定統治 機構(UNTAC), 正式 発足。
	3. 19 大学院文学研究科教育学専攻博士課程後期 修了者に, 本学初の博士の学位記を授与。 (15-3-I)(18-115・116)	5. 平塚らいてうを記念する 会発足。
	3. 『麻生正蔵著作集』刊行(成瀬記念館 編)。 (㊦-491)(15-3-313)(18-117)(34)	6. 地球サミット(国連環境 開発会議)開催。
	4. 1 大学院人間生活学研究科人間発達学専攻・ 生活環境学専攻博士課程後期開設。(㊦- 489)(15-4-I)(18-116・117)	6. 国連平和維持活動 (PKO) 協力法成立。
	4. 1 理学部(数物科学科・物質生物科学科)開 設。(㊦-489)(15-4-I, 242)(18-116・117)	7. 東京都, 財団法人東京女 性財団設立。
	4. 1 古屋房子, 豊明小学校校長に就任。(15- 4-II, 44)	7. 総務庁, 1990年国勢調査 の第2次基本集計結果発 表。女子の労働力率, 各 年齢層で戦後最高水準に なる。
	5. 7 現代社会学科, 第1回学科研究会開催。 (15-4-202)	8. 中華人民共和国・大韓民

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1993 (平成5)	5. 30 第1回児童研究所講演会開催。(15-4-288)(18-117)	国, 国交樹立。
	6. 3 ビデオ「建物は語る 日本女子大学の90年」完成。(15-4-351)	9. 幼・小・中・高で月1回の週5日制実施。
	6. 6 理学部・大学院人間生活学研究科開学式挙行。(㊦-489・491)(15-4-49, 242)(18-116・117)	11. 労働省, 「平成四年版婦人労働の実情」発表。共働き世帯が初めて非共働き世帯を上回る。
	6. 27 日本女子大学文化学会設立総会開催。(15-4-233)	11. 開発途上国の女性を支援する国連婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会設立。
	7. 11 家政経済学科創設30周年記念第1回シンポジウム開催。(15-4-163)(18-118)	12. 森山真弓, 女性初の文相に就任。
	7. 15 本学図書館, 学術情報センター接続承認書受理。(15-4-282)	12. 総理府, 「女性の現状と施策 新国内行動計画に関する報告書(第二回)」(『女性白書』)発表。
	7. 16 「学寮を考える会」を引き継ぎ, 「学寮の将来を考える会」発足。(15-4-271, 272)	○ この年, 不況深刻化, 大型景気対策始動。
	10. 25 課外活動活性化のため, その活動を援助する泉会賞を設定。第1回受賞式。(15-4-269, 378)(18-119)	○ この年, 従軍慰安婦問題。
	11. 7 川崎市教育委員会より委託を受け, 女子教育研究所, 日本女子大学公開講座開講。(15-4-295)(18-120)	
	12. 3 学生の自治活動において, 目白・西生田両キャンパス初の合同連絡協議会開催。(15-4-II, 268, 270)(18-120) ○ 国際交流において, 協議大学制度廃止。(15-4-266, 267)	
2. 20 「明桂寮閉寮のつどい」開催。(㊦-497・499)(15-4-II)(18-120・121) 2. 日本女子大学文化学会, 「文化学研究」創	4. 中学校, 新学習指導要領全面实施。 6. 皇太子成婚。	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	刊。(34)	
	3. 13 教育学科, 創設43年記念の集いを開催。 『日本女子大学教育学科四十三年誌』刊行。 (18-122)	6. 国連世界人権会議, 25年 ぶりに開催。
	3. 31 青木生子, 学長・理事長を退任。(㊦-498) (15-4-IV, 1)(18-121)	7. 北海道南西沖地震。
	3. 31 家庭福祉センター, みどり学童保育クラブ 閉所。みどりの家を足立区に寄付。記念誌 『みどりの家三十四年の歩み』(3/8刊)。 (㊦-501)(15-4-38, 313)(18-121)(34)	7. 文部省, 高校指導要録の 改訂を通知。各欄の大幅 簡素化が目玉。
	3. 31 明桂寮閉寮。(㊦-497)(15-4-271)(18-121)	8. 政府, 従軍慰安婦の強制 連行を認める。
	3. 「日本女子大学紀要 理学部」創刊。(㊦- 501)(34)	8. 自民党政権崩壊, 細川連 立政権樹立。
	4. 1 宮本美沙子, 第10代日本女子大学学長・理 事長に就任。(㊦-499)(15-4-IV, 1/5-1)(18 -121・122)	8. 土井たか子, 初の女性衆 議院議長に選出。
	4. 1 武井梅野奨学金設定。(15-4-273)(18-130)	8. 文相に民間人の赤松良子 就任。
	4. 1 野見山不二留学生奨学金設定。(15-4- 273)(18-132)	8. 細川首相, アジア・太平 洋戦争について「侵略戦 争」と明言。
	4. 1 大学院文学研究科に史学専攻修士課程開 設。(㊦-499)(15-5-I, III)(18-121~123)	8. 文部省, 93年度「学校基 本調査」発表。大学・短 大志願率・数とも初めて 女子が男子を上回る。
	7. 8 第1回自己点検教学委員会(1995年, 法人 側の自己点検法人委員会発足)。(15-5- 85/6-I, 89, 90)(18-143)	11. マーストリヒト条約発効。
	8. 6 高等学校生徒希望者, 国際交流で初めての ホームステイをニュージーランドで行な う。24日まで。(15-5-380, 383)(18-124)	12. 文部省, 5年度問題行動 白書を発表。
	10. 23 日本女子大学オーケストラ発足。目白祭で 第1回演奏会を行う。(15-5-II, 294)(18- 119・125)	○ この年, 冷夏・豪雨など の異常気象で大凶作。

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1994 (平成6)	10.	家庭福祉センター、『学童保育の福祉問題』刊行。(㊦-507)(15-5-336)(34)	
	11.	女子教育研究所、『生活学を学ぶ—ウィメンズ・ライフロング・カレッジの実践』刊行。(15-5-320)(34)	
	12. 11	児童研究所講演録『子どもたちの今と未来を考える』刊行。(15-5-314)(34)	
	1. 21	第1回学園教育検討委員会開催。(15-6-93, 94)	3. 国際婦人年連絡会, 国際家族年シンポジウム(婦選会館)。
	3. 17	カリキュラム改革合同委員会発足。(15-6-I, 92, 93)	5. 女性教育委員が増加。
	3. 19	本年度卒業式において, 人間社会学部第1回生608名卒業。(㊦-511)(15-5-I)(18-127)	5. 今春の就職浪人15万人。(総理府調査) 女子学生は7万人と過去最高。
	3. 31	家庭福祉センター閉所。(15-5-336)	6. 大学基準協会, 大学基準を改定。自己点検・評価を盛り込む。
	4. 1	大学院人間社会研究科社会福祉学専攻・教育学専攻博士課程, 現代社会論専攻・心理学専攻修士課程開設。(15-6-I, 97)(18-127・129)	6. 国会, 児童の権利条約批准。
	4. 1	「教特を考える全学的委員会」(教養特別講義合同委員会)設置。(15-6-306)	7. 日本人初の女性宇宙飛行士・向井千秋, 宇宙へ。
	4. 1	日本女子大学学生自治会, 目白学生自治会と西生田学生自治会に分離独立。(15-5-II, 292/6-309)	7. 閣議, 「男女共同参画推進本部」設置決定。
	4. 1	目白・西生田両地区のクラブ連合会は, 日本女子大学クラブ連合会として一本化, 組織の再編を図る。(15-6-II, 309)	9. 関西空港開港。
	4. 1	中島直子, 豊明小学校校長に就任。(15-6-II, 42)	9. 国際人口・開発会議開催。
			10. 第1回「東アジア女性フォーラム」開催。(かながわ女性センター)
		11. 国連総会, 対人地雷廃絶	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>4. 1 人間社会学部校舎に就職資料室新設。(15-6-37)</p> <p>4. 13 計算研究所, インターネットに接続, 運用開始。(15-6-338)</p> <p>5. 18 西生田講堂(仮称)建設起工式。(15-6-IV)(18-129)</p> <p>5. 26 西生田生涯学習センター起工式举行。(15-6-IV)(18-129)</p> <p>6. 18 日本女子大学社会福祉学会創設。(15-6-253)</p> <p>8. 18 宮本学長, ウェルズリー・カレッジとメリーマウント・カレッジを訪問。交換留学に関する協定の再確認をする。(15-6-III)</p> <p>10. 21 図書館開館30周年記念講演会開催。(15-6-325)</p> <p>11. 23 家政経済学科30周年記念行事開催。(㊦-516)(15-6-205)(18-132)</p>	<p>要請を決議。</p> <p>11. 10月1日現在の学生の就職内定率は過去最低。女子は61.5%で, 男子より17%低い。(文部省調査)</p> <p>12. 総務庁, 「女性の現状と施策」公表。</p> <p>○ この年, コメ不足, 価格高騰。</p> <p>○ この年, 中高生のいじめによる自殺相次ぐ。</p>
1995 (平成7)	<p>2. 女子教育研究所, 『成瀬仁蔵著作集 事項索引』刊行。(㊦-522)(15-6-338)(34)</p> <p>3. 15 阪神大震災に伴う特別入試実施。(㊦-519)(15-6-II, IV)(18-133)</p> <p>3. 女子教育研究所, 『地域住民のニーズに応える日本女子大学西生田生涯学習センター』刊行。(15-6-338)(34)</p> <p>3. 「日本女子大学人間社会研究科紀要」創刊。(34)</p> <p>3. 「日本女子大学大学院文学研究科紀要」創刊。(㊦-526)(34)</p> <p>3. 大学院文学研究科史学専攻, 「史櫻」創刊。</p>	<p>1. 阪神・淡路大震災。</p> <p>1. 国際貿易機関(WTO)発足。</p> <p>3. オウム真理教による地下鉄サリン事件。</p> <p>7. アメリカ, ベトナムとの国交正常化。</p> <p>9. 日教組, 文部省との協調路線決定。</p> <p>9. 第4回国連世界女性会議開催(北京)。女性の地位向上のための行動綱領採</p>

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
		(34)	
	3.	女子教育研究所, 『日本女子大学寮の思い出——寄せられた原稿を中心に』刊行。(15-6-338)(34)	11. 文部省, 大卒予定者の就職内定状況(10月1日現在)を発表。女子大生は6割にとどまる。
	3.	女子教育研究所, 女子教育研究双書(10)『女子大学論』刊行(同双書終刊)。(㊦-526)(15-6-338)(34)	12. 文部省, 6年度問題行動白書を発表。いじめ件数は5万6600件余りと前年度の2.6倍。
	3.	『女子教育研究所三十年の歩み』(年表)作成。(㊦-526)(15-6-338)(34)	12. 労働省, 部署の名称を「婦人」から「女性」に変更することを決定。
	3.	「農家生活研究所所報」第12号(最終号)発行。(㊦-526)(15-6-335)(34)	○ この年, 金融機関の経営破綻が相次ぎ, 金融不安が拡大。
	3.	「日本女子大学史資料集第一」発行。(㊦-522)(15-6-388)(34)	○ この年, 中国・フランス・アメリカ核実験。
	3.	児童研究所, 『閉所記念誌』刊行。(15-6-331)(34)	
	4. 1	大学院文学研究科史学専攻に博士課程後期増設。(㊦-521)(15-7-I)(18-135)	
	4. 1	国文学科を日本文学科に名称変更。(㊦-517)(15-7-IV)(18-132)	
	4. 1	人間社会学部, 本年度入学者より新カリキュラム実施。(15-7-I, 105)(18-137・138)	
	4. 1	綾野道江, 高等学校校長に就任。(15-7-II, 48)	
	4. 1	日本女子大学総合研究所発足。(児童研究所・農家生活研究所・女子教育研究所の3付置研究所を改組・統合)(㊦-526)(15-7-I, 343)	
	4. 1	高橋憲子・一宮道子記念奨学金, 武井梅野奨学金を統合し, 日本女子大学学業奨励賞とする。(15-7-II, 323)(18-141)	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
1996 (平成8)	4. 1 日本女子大学家政理学科一部奨学金を改正し、理学部学生を対象とした日本女子大学理学部奨学金を設定。(15-7-325)(33)	
	4. 1 計算研究所をコンピュータセンターと改称。(33)	
	5. 「日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科」創刊。(34)	
	6. 3 史学科創立50周年記念祝賀会開催。(㊦-525)(15-7-240)	
	6. 8 西生田生涯学習センター開所式。(㊦-524)(15-7-345)(18-135・136)	
	6. 14 西生田生涯学習センター公開講座開始。16日から相談事業等も始める。(15-7-346)(18-136)(33)	
	7. 1 学生生活部に留学生課を新設。(15-7-IV, 321)	
	7. 1 高橋憲子記念研究奨学金・大橋広記念奨学金を統合し、日本女子大学教員研究奨励金を設定。(15-7-323)(18-141・153・154)	
	8. 21 豊明小学校新校舎起工式。(㊦-525)(15-7-写真)(18-136)	
	12. 5 創立百周年記念事業準備委員会発足。(15-7-IV)(18-138)	
	12. 9 日本女子大学心理学科の会第1回総会・講演会開催。(15-7-270)	
	○ この年、オウム真理教騒動の影響を受ける。(㊦-528)(18-137)	
	1. 31 西生田に講堂竣工。西生田成瀬講堂と命名。(㊦-532)(15-7-42, 405, 406, 410)	

3. 「アジア女性史国際シンポジウム—多様性と共通

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
		(18-142)	
	2. 1	日本女子大学自己点検・評価規則案を教授会で可決。(15-7-I, 104)	性をさぐる」開催。(東京・御茶ノ水)
	3. 15	成瀬記念館西生田記念室開室。(㊸-531)(15-7-399)	4. 沖縄米軍基地問題は、基地縮小で日米合意。
	3. 19	本年度卒業式において、理学部第1回生150名卒業。(15-7-I)(18-139)	4. 国連人権委員会はクマラスワミ報告、「女性に対する暴力に関する決議」を採択。「戦時の軍事的性奴隷制度問題に関する報告書」で国家賠償と関係者の処罰を勧告。
	3.	「日本女子大学総合研究所ニュース」創刊。(15-7-234, 343, 345)(18-149)(34)	6. 「母体保護法」成立。
	3.	日本女子大学心理学科の会「心理学研究成果報告書」創刊。(34)	7. 中央教育審議会、教育に「ゆとり」を提言。
	4. 1	大学院家政学研究科に生活経済専攻修士課程開設、人間社会研究科心理学専攻に博士課程後期増設、理学研究科に数理・物性構造科学専攻、物質・生物機能科学専攻修士課程開設。(㊸-530)(15-8-I)(18-138)	9. 国連、包括的核実験禁止条約採択。
	4. 1	家政学部・文学部・理学部、本年度の入学者より新カリキュラムを実施。(15-8-I)(18-137・138)	○ この年、病原性大腸菌O-157大量感染。
	4. 1	本年度より教養特別講義1の軽井沢セミナー、1泊2日となる。(15-7-106/8-341)(18-142・148)	
	4. 1	森田美喜子、豊明幼稚園園長に就任。(15-8-II, 53)	
	4. 1	井上秀・上代タノ記念奨学金を統合し、日本女子大学大学院奨学金を設定。(15-7-323)	
	4. 13	学生による初の体育会シンポジウムを開催。(15-8-347)(18-140)	
	4.	西生田キャンパスにC棟(大学院・研究棟)	

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
1997 (平成9)		完成。(15-8-Ⅲ, 46)(33)	
	6. 1	西生田成瀬講堂落成式挙行。(㊦-534)(15-8-58)(18-141・142)	
	6. 1	「日本女子大学コンピュータセンター年報」創刊。(34)	
	6. 18	創立百周年記念事業委員会発足。(15-8-Ⅳ, 9/9-Ⅳ)	
	8.	豊明小学校新校舎第1期工事終了。(18-142)	
	9. 14	豊明幼稚園, 創立90周年祝賀音楽会開催(於 西生田成瀬講堂)。翌年, 『創立90周年記念誌』刊行。(㊦-534・537)(15-8-Ⅲ, 58, 456)(18-142)(34)	
	10. 1	日本女子大学ホームページを開設, 運用。(15-8-65)(18-144)	
	11. 1	日本女子大学図書館ホームページ開設。(15-8-363)(18-144)	
	11. 30	第1回総合研究所研究発表会開催。(15-8-369, 370)(18-143)	
		○ この年, 学寮の活性化を図るため, 各種行事や教養講座を開催。(15-8-352)	
	3. 17	大学基準協会より, 「大学基準」に適合の評価を得る。(15-8-Ⅳ, 107, 109)(18-143・147)	1. 大学側の申し合わせに伴い就職協定の廃止確定。
	4. 1	大学院人間社会研究科現代社会論専攻に博士課程後期増設。(㊦-541)(15-9-I)	1. 奈良女子大学学長に, 丹羽雅子教授選出。国立大学初の女性学長となる。
	4. 1	鈴木由紀子, 中学校校長に就任。(15-9-II, 47)	4. 消費税税率5%。
	4. 1	功力俊文, 豊明小学校校長に就任。(15-	5. 文部省, 第1回教育改革フォーラムを開催。

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>9-II, 47)</p> <p>4. 1 教養特別講義2, 学生委員が運営及び実施にかかわる新カリキュラムとなる。(15-9-325)</p> <p>4. 1 成瀬仁蔵先生記念奨学金を成瀬仁蔵先生記念賞とし, 卒業式に卒業生の優秀者に授与。(15-9-II, 335)</p> <p>4. 1 日本女子大学学業奨励賞を名称変更し, 日本女子大学学業・研究奨励賞を設定。(15-9-II, 335)(18-147)</p> <p>5. 1 被服学科, 日本女子大学被服学科奨励賞設定。(15-9-335)(18-153)(33)</p> <p>7. 30 第1回日本女子大学創立百年史編纂委員会開催。(15-9-417)</p> <p>9. 豊明小学校新校舎建設全工事終了。(18-153)</p> <p>11. 21 豊明小学校, 新校舎落成のお祝いの会開催。(15-9-439)</p> <p>○ この年, 英国のウォリック大学・ノッティンガム大学・ヨーク大学およびカナダのマギル大学, 本学の協定大学となる。(15-9-331)(18-152・153・155)</p>	<p>6. 司書教諭必置への学校図書館法改正が成立。</p> <p>6. 「女子保護」規定を撤廃する雇用機会均等法等整備法案成立。</p> <p>6. 中央教育審議会, 21世紀を展望した答申。入試の多様化・中高一貫教育導入を打ち出す。</p> <p>6. 臓器移植法成立。</p> <p>7. 総理府男女共同参画室, 『男女共同参画の現状と施策』を発表。</p> <p>7. 香港, 英国より中国に返還。</p> <p>12. 地球温暖化防止国際会議。(京都)</p> <p>12. 対人地雷全面禁止条約調印。</p> <p>○ 金融機関の経営破綻相次ぐ。(公的資金導入へ)</p> <p>○ 各婦人団体, 全国で日米間の新ガイドラインに対する反対行動実施。</p>	
1998 (平成10)	<p>4. 1 大学院理学研究科数理・物性構造科学専攻, 物質・生物機能科学専攻に博士課程後期増設, 人間社会研究科に相関文化論専攻修士課程開設。(㊦-522)(15-10-I, 98)(18-150・152)</p> <p>4. 1 柴谷クニ奨学金を名称変更し, 日本女子大</p>	<p>2. 冬季オリンピック, 長野で開催。</p> <p>4. 国連人権委員会, 女性に対する暴力撤廃決議を採択。</p> <p>4. 婦人週間が女性週間に名</p>	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>学住居学科賞設定。(15-10-345)(18-157)(33)</p> <p>4. 1 草薨秋男, 高等学校校長に就任。(15-10-II, 44)</p> <p>4. 1 中学校・高等学校, 完全週5日制実施。(15-10-433)(18-151)</p> <p>4. 30 豊明小学校校舎において, 第1回学園一貫教育研究集会開催。(15-10-III, IV, 432, 437)(18-153)</p> <p>4. 目白地区の寮が全て個室となる。(㊱-549)(15-9-339/10-II, 349)</p> <p>4. 潜心Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ寮の名称を「潜心寮」として一括することに決定。(15-9-339)</p> <p>5. 22 豊明小学校校舎落成式・祝賀会挙行。23日まで。(㊱-556)(15-10-49, 444)(18-153)(33)</p> <p>7. 21 第1回専任教職員懇親会開催。(15-10-V, 50)</p> <p>10. 1 創立百周年記念事業推進本部設置。(15-10-IV, 7)(18-154)</p> <p>10. 創立百周年記念事業のための募金活動開始。(㊱-557・559)(15-10-III, 7)(18-155)</p> <p>11. 生涯学習総合センター開設準備室発足。(18-159)</p> <p>11. 「日本女子大学総合研究所紀要」創刊。(15-10-364, 365, 367)(34)</p> <p>○ この年, 英国のランカスター大学・ブリストル大学, 米国 マウント・ホリヨーク・カレッジ, 韓国 梨花女子大学, 本学の協定大学となる。(15-9-331)(18-153)</p>	<p>称変更。</p> <p>5. インドネシア, スハルト体制崩壊。</p> <p>6. 改正学校教育法により中・高一貫教育の制度化。</p> <p>6. 中央教育審議会, 幼児期からの心の教育答申。</p> <p>8. 朝鮮民主主義人民共和国, ミサイル発射。三陸沖に落下。</p> <p>11. 文部省, 小・中の教育内容を大幅にしぼりこむ。</p> <p>○ この年, アジア経済危機, 世界に波及。</p> <p>○ この年, セクシュアル・ハラスメントに対し防止対策始まる。</p> <p>○ この年, 従軍慰安婦問題国内外を越えて高まる。</p>

年	学 園 事 項	参 考 事 項
1999 (平成11)	<p>4. 1 前典子，豊明幼稚園園長に就任。(15-11-III, 44)</p> <p>4. 1 学術交流研究費創設。(15-11-I, V)(18-162)</p> <p>4. 豊明小学校，全学年で情報教育の授業を実施。1～3年生では英会話の授業も実施。(15-11-467)</p> <p>6. 5 百年館新築工事起工式挙行。(㊦-567・568)(15-11-III, V, 9, 49, 50)(18-159・160)</p> <p>7. 6 早稲田大学と学生交流の協定を締結(2000年度より単位互換を開始)。(㊦-569・578)(15-11-I)(18-160・165)</p> <p>7. 25 家政学部通信教育課程創設50周年記念講演会開催。(15-11-245, 246)(18-160)</p> <p>12. 4 通信教育創設50周年記念式典・祝賀会挙行(於 椿山荘)。『通信教育の50年』刊行。(㊦-573)(15-11-V, 50, 51, 245)(18-162)</p> <p>12. 8 セクシュアル・ハラスメント防止委員会他の設置を含む，「日本女子大学セクシュアル・ハラスメントの防止・排除に関する規程」制定，施行。(15-11-V)(18-160・162・165)(33)</p> <p>12. 目白・西生田両キャンパスの学生委員会，従来の合同連絡協議会に替えて第1回「リーダーズミーティング'99」開催。(15-11-II, 370)(18-168)</p> <p>12. 生涯学習総合センター開設準備室業務開始(百周年記念事業)。(18-156)</p> <p>○ この年，オーストラリアメルボルン大学，</p>	<p>1. 欧州単一通貨ユーロ誕生。</p> <p>3. 対人地雷全面禁止条約発効。</p> <p>3. 国連女性の地位委員会，「女子差別撤廃条約の選択議定書」採択。</p> <p>4. 改正男女雇用機会均等法施行。</p> <p>4. カンボジア，ASEANに加盟。</p> <p>5. 日米新ガイドライン関連法成立。</p> <p>7. 第11回国際女性技術者・科学者会議，日本で初めて開催。</p> <p>8. 国旗・国歌法成立。女性団体批判。</p> <p>9. 東海村核燃料施設で国内初の臨界事故。</p> <p>○ 失業率過去最高，中高年の自殺急増。</p> <p>○ 子どもの体力低下続く。</p>

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
2000 (平成12)	<p>本学の協定大学となる。(15-11-Ⅲ, 365)</p>	<p>2. 太田房江, 初の女性知事となる(大阪府)。</p> <p>3. 有珠山噴火。</p> <p>4. 介護保険制度開始。</p> <p>6. 南北朝鮮首脳会談が実現。</p> <p>7. 三宅島噴火。</p> <p>7. 九州・沖縄サミット。</p> <p>11. 改正少年法成立。</p> <p>12. BSデジタル放送開始。</p> <p>12. 「女性国際戦犯法廷」開催。</p> <p>12. 教育改革国民会議, 奉仕活動の実施等を盛り込んだ最終報告提出。</p> <p>○ 小・中学校の不登校・学級崩壊など続く。</p> <p>○ 国際ヒトゲノム計画の解読作業完了。</p> <p>○ 少年による凶悪犯罪続発。</p> <p>○ 食中毒・食品異物混入が多発。</p> <p>○ 企業の倒産相次ぐ。</p>
	<p>3. 8 目白台の国有地(旧田中邸跡地) 1196.78平方メートルの払い下げ認可。国有財産売買契約締結。(15-11-Ⅳ, 39)</p>	
	<p>4. 1 中学校・高等学校校長一人制実施。久保淑子, 校長に就任。(15-12-Ⅲ, VI, 48, 490)(18-162・164・166)</p>	
	<p>4. 泉会, 「課外活動等援助費」中に「研究発表助成費」を新設, 文化・音楽系サークル活動を奨励。(15-12-II, 388)</p>	
	<p>6. 29 第3回学園一貫教育研究集会の一環として大学教員による附属中学校・高等学校生徒に対する特別講義がおこなわれる。(15-12-VI, 485, 490)(18-166)</p>	
	<p>7. 29 高等学校, 第1回英国語学研修実施。(ケンブリッジ市) 生徒34名参加, 8月20日まで。(15-12-485)</p>	
	<p>9. 22 百周年記念事業の一環として, 記念切手「私立の女子高等教育の創始100周年記念」発行。これにあわせて, 25日に津田塾大学・東京女子医科大学と共にシンポジウム「二十一世紀の女子大学を考える」開催(於 朝日生命ホール)。(㊱-578~580)(15-12-9, 10)(18-166・168)</p>	
	<p>10. 20世紀最後の学園祭開催。7・8日, 中学校 十月祭, テーマ「熱烈魂」。20~22日, 目白祭, テーマ「Trace——桜のみた日々——」。21・22日, 日女祭, テーマ「粋(いき)」。28・29日, 高等学校 もみじ祭,</p>	

年	月日 学 園 事 項	参 考 事 項
2001 (平成13)	<p>テーマ「AMERICANA」。(㊦-583)(15-12-II, 387)(18-167)</p>	
	<p>12. 2 人間社会学部創設10周年記念式典・シンポジウム・祝賀会開催。記念誌『人間社会学部10年のあゆみ』刊行。(㊦-584)(15-12-I, 52, 53, 284, 285)(34)</p>	
	<p>12. 7 学習院大学・学習院女子大学・立教大学・早稲田大学と5大学間学生交流の協定締結。(2001年度より単位互換開始)(㊦-584)(15-12-I, V)(18-167)</p>	
	<p>○ 就職活動は、景気の回復傾向やIT革命の進展を背景に、昨年より恵まれた環境下で展開されたが、企業側の「厳選採用」というスタンスはかわらず、厳しい活動となった。(2001年1月末現在の内定率はおよそ88%)。(㊦-586)(15-12-399, 400)</p>	
	<p>○ 神奈川県内の大学院間における大学院学術交流協定締結。(15-12-I)</p>	
	<p>1. 米国 オレゴン大学、本学の協定大学となる。(15-12-III, 381)</p>	<p>1. 中央省庁を1府12省庁に再編。文部省は文部科学省となる。</p>
	<p>3. 1 日本文学科・大学院文学研究科日本文学専攻学生対象の日本女子大学日本文学科賞設定。(15-12-III, 390)(18-169)(33)</p>	<p>3. 教科書検定問題で、中国・大韓民国、悪念を表明。</p>
	<p>3. 22 日本女子大学創立百周年記念歌決定(前年2月に公募作品より選出した作詞をもとに作曲を募集)。(㊦-566・576)(15-12-VI, 10)(18-154・163・169)</p>	
	<p>3. 31 宮本美沙子、学長・理事長を退任。(㊦-585)(15-12-V, VI, 1)(18-169)</p>	

年	月日	学 園 事 項	参 考 事 項
	<p>4. 1 梅花寮，休寮。(15-12-395)(33)</p> <p>4. 1 後藤祥子，第11代日本女子大学学長・理事長に就任。(㊦-587)(15-12-V, 1)(18-170)</p> <p>4. 1 住居学科に居住環境デザイン専攻・建築環境デザイン専攻設置。(15-12-I)(18-169)</p> <p>4. 4 山口県吉敷で，桜楓会山口支部主催による日本女子大学創立百周年記念の集いを開催。(㊦-589)(33)</p> <p>4. 20 本学創立百周年を迎える。教養特別講義の一環で，恒例行事である創立記念式をおこなう（祝典は，12月1日を予定）。(㊦-589)(18-171)</p>		

典 拠 一 覧

注：団体の発行は編者を省略

学 園 刊 行

- 1) 「日本女子大学校の過去現在及び将来」 [1910年] 日本女子大学校
- 2) 「三つの泉」 1907年4月 桜楓会
- 3) 「成瀬先生伝」 1928年4月 渡辺英一著・仁科節編
- 4) 「日本女子大学校四拾年史」 1942年4月 日本女子大学校
- 5) 「日本女子大学学園史 二」 1968年6月 日本女子大学
- 6) 「日本女子大学附属豊明小学校沿革史」 1967年6月 日本女子大学附属豊明小学校
- 7) 「日本女子大学附属高等学校三十年史」 1983年12月 日本女子大学附属高等学校
- 8) 「日本女子大学附属豊明小学校八十年史」 1988年6月 日本女子大学附属豊明小学校
- 9) 「若葉会のあゆみ」 1989年2月 日本女子大学若葉会
- 10) 「学報」 [日本女子大学校] 学報編集部
 - 1 1号 1903年7月
 - 2 2号 1903年12月
 - 3 3号 1904年6月
 - 4 4号 1904年12月
- 11) 「家庭週報」 桜楓会

1号～1633号 1904年6月25日～1951年4月15日
- ⑩ 「桜楓新報」(「家庭週報」を改題)

1号～589号 1951年5月25日～2001年6月10日
- 12) 「桜楓会通信」 33号 P24～26 1910年11月 桜楓会
- 13) 「若葉」 1号 1911年4月 [附属高等女学校] 若葉会
- 14) 「花紅葉」 10号 P108,110 1912年6月 桜楓会
- 15) 「学事報告」 日本女子大学

昭和31年度	40年度	49年度	58年度	4年度
32	41	50	59	5
33	42	51	60	6
34	43	52	61	7
35	44	53	62	8
36	45	54	63	9
37	46	55	平成1	10
38	47	56	2	11
39	48	57	3	12
- 16) 「目白文学」 創刊号 1961年12月 (座談会「目白文学」を語る)
- 17) 「成瀬記念館1988」 4号 1988年11月 日本女子大学成瀬記念館
(「三綱領の書かれた日について」石川ムメ)
- 18) 「学園ニュース」

- 1号～29号 1960年6月23日～1966年7月10日 日本女子大学学園PTA連合会
 30号～171号 1966年10月20日～2001年7月15日 日本女子大学
- 19) 「日本女子大学史資料集 第七 日本女子大学校 大学本科・高等学部関係資料」
 2001年3月31日 日本女子大学成瀬記念館
- 20) 「日本女子大学史資料集 第六 新制日本女子大学成立関係資料」
 2000年3月30日 日本女子大学成瀬記念館

その他刊行

- 21) 「大正・昭和保育文献集 別巻 解題・総索引」 1978年3月 日本らいぶらり
 (河野清丸著「モンテッソーリ教育法と其応用」解説 吉岡剛)
- 22) 「吉敷地区郷土誌 第25輯 成瀬仁蔵小伝」高橋文雄編 1960年8月 山口市吉敷公民館
- 23) 「梅花学園110年史」1988年10月 梅花学園
- 24) 「創立100周年記念 写真で見る新潟教会の歩み 1886-1986」 1986年10月 日本キリスト
 教団新潟教会
- 25) 「浪花教会百拾年史年表」 1987年1月 日本キリスト教団浪花教会
- 26) 「明治教育秘史 新潟女学校と北越学館」 1990年5月 新潟日報事業社出版部
- 27) 「女学雑誌」267号 P11 1891年5月3日 (「ウエレズレー女子大学観察畧記」成瀬仁蔵)
- 28) 「婦女新聞」 1 563号 P2 1911年3月3日
 2 1453号 P2 1928年4月15日
- 29) 「婦一協会会報」 第1号 P27 1913年2月
- 30) 「教育」 2巻4号 1934年4月
 (「愛国憂世の霊的教育家成瀬仁蔵君小伝(上篇)」麻生正蔵)
- 31) 「沢山保羅研究」 梅花学園
 1 4号 1974年1月 (「浪華基督教会記録〔1879年～1888年〕浪花教会蔵」〔翻刻〕)
 2 6号 1979年1月 (「アメリカン・ボード北日本ミッションと沢山保羅-新潟伝道の開
 始から教会設立まで」本井康博)
- 32) 「同志社談叢」創刊号 1981年2月 同志社社史史料編集所 (「新島襄と加藤勝弥」本井康
 博)

その他の資料

- 33) 書簡, 文書類, 聞き取り, 前記以外の刊行物
 * (1884年1月2日)の典拠は、『新島襄全集』5巻 P243 1984年6月 同朋舎出版
- 34) 原物資料(刊行物)

日本女子大学創立百年史編纂委員会

後藤祥子（学長・成瀬記念館館長）2001年4月より
宮本美沙子（前学長・名誉教授）2001年3月まで
斉藤寛治郎（常務理事）
阿部憲司（常務理事）1998年7月より
一番ヶ瀬康子（名誉教授）
館岡 孝（成瀬記念館元主事・名誉教授）
新井 明（ 同 ・名誉教授）
中嶋 邦（ 同 ・名誉教授）
出淵敬子（ 同 ・文学部教授）
江澤郁子（成瀬記念館前主事・家政学部教授）
金子堯子（成瀬記念館主事・理学部教授）2001年4月より
倉田宏子（文学部教授）
真橋美智子（人間社会学部助教授）
成瀬記念館館員

編集

百年史編纂事務室（成瀬記念館）

年表・日本女子大学の100年

2001年12月1日 発 行

発 行 者 後 藤 祥 子

発 行 日 本 女 子 大 学

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

T E L (03) 5981-3376 (成瀬記念館)

印 刷 共 同 印 刷 株 式 会 社

